

(仮称) 豊中市子ども健やか育み条例制定にかかる
ヒアリング結果報告書

平成25年(2013年)2月

豊中市 こども未来部

豊中市では、これまで「青少年健全育成都市」を宣言するとともに、「豊中市子ども総合計画」や「豊中市子ども総合計画推進計画」、「豊中市次世代育成支援行動計画」を策定し、子どもに関する施策を推進してまいりました。

一方、少子化の進行、家族形態やライフスタイル、働き方の多様化、18歳未満の子どもを持つ世帯割合の減少や都市化による地域と子育て家庭の関係性の変化など、子どもや子育てをしている家庭を取り巻く環境が大きく変化しています。

こうした状況の中、これまでの取組みを踏まえながら、0歳から18歳までの子どもの育ちを総合的にとらえ、子どもが健やかに育まれる仕組みづくりを総合的、継続的に推進するため、（仮称）豊中市子ども健やか育み条例の制定を予定しています。

条例制定にあたり、本市における子ども及び子どもを取り巻く状況を把握するため、子ども本人へのヒアリングを行うとともに、保護者や子育て・子育て支援活動を行っている市民へのヒアリングを行いました。

今後、このヒアリング結果を（仮称）豊中市子ども健やか育み条例や子どもに関する施策に反映していきたいと考えています。

最後に、このヒアリング調査の実施にあたり、ご協力いただきました市民のみなさま、関係機関のみなさまに厚くお礼を申し上げます。

平成25年（2013年） 2月

<目 次>

I. ヒアリング概要	・・・	1
II. ヒアリング結果概要		
1. 子どもへのヒアリング		
(1) こどもワークショップ（公募）	・・・	2
(2) 高校生	・・・	6
(3) 新成人	・・・	10
(4) 外国にルーツを持つ大学生等	・・・	11
(5) ひとり親家庭で育った大学生等	・・・	13
2. 保護者へのヒアリング	・・・	15
(1) 大人ワークショップ（公募）	・・・	16
(2) 豊中市PTA連合協議会	・・・	24
(3) 障害児の保護者	・・・	25
3. 支援機関・団体等へのヒアリング		
(1) 地域子育て・子育て支援団体	・・・	33
(2) 子ども・若者（ニート・ひきこもり等）の支援団体	・・・	35
(3) 人権全般		
①一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会	・・・	36
②公益財団法人とよなか国際交流協会	・・・	38
(4) その他		
①大阪府立桜塚高等学校 定時制の課程	・・・	40
②社会福祉法人豊中市母子寡婦福祉会	・・・	41
③不登校・ひきこもり・悩みを抱える生徒・児童を支援している団体	・・・	43
④多胎児の保護者及び支援者	・・・	45
4. その他	・・・	46
III. 資料編		
1. 保護者等意見の総括表	・・・	48

I. ヒアリング概要

項目	実施日	延人数	
1. 子どもへのヒアリング	11回	115	
(1) こどもワークショップ（公募）	H23.12.3・26 H24.1.14、3.26	45	
(2)	高校生（ダンスフェスタ代表者会議）＜アンケート＞	H23.10.28	45
	高校生（ダンスフェスタ代表者会議）＜ヒアリング＞	H23.11.25	4
(3) はたちの集い企画委員会	H23.11.28 H24.1.25	4	
(4) 公益財団法人とよなか国際交流協会 （外国にルーツのある大学生等）	H23.10.23 H23.12.11	11	
(5) 社会福祉法人豊中市母子寡婦福祉会からの情報提供 （ひとり親家庭で育った大学生等）	H24.1.20	6	
2. 保護者へのヒアリング	9回	104	
(1) 大人ワークショップ（公募）			
①北部地区	H23.11.30	7	
②中部地区	H23.12.8	11	
③南部地区	H23.11.26	19	
(2) 豊中市PTA 連合協議会	H23.11.8	15	
(3) 障害児の保護者など	H24.1.17・24・25 2.20、5.17	52	
3. 支援機関・団体等へのヒアリング	13回	74	
(1) 地域の子育ち・子育て支援団体			
地域子育ち・子育て支援ネットワーク小学校区連絡会(北部)	H23.11.8	17	
地域子育ち・子育て支援ネットワーク小学校区連絡会(中部)	H23.11.30	14	
地域子育ち・子育て支援ネットワーク小学校区連絡会(南部)	H23.11.18	11	
(2) 子ども・若者（ニート・ひきこもり等）の支援団体			
ひきこもり等若者支援団体（3団体）	H23.9.28	3	
就労困難な若者の支援団体（1団体）	H23.10.18	4	
(3) 人権全般			
①一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会	H23.11.15・16	3	
②公益財団法人とよなか国際交流協会	H23.10.23 H23.12.11	4	
(4) その他			
① 大阪府立桜塚高等学校（定時制の課程）	H23.11.28	2	
② 社会福祉法人豊中市母子寡婦福祉会	H23.12.6	2	
③ 不登校・ひきこもり・悩みを抱える生徒・児童を支援している団体	H23.12.1	4	
④ 多胎児の保護者及び支援者	H23.10.28	10	
4. その他			
(1) 障害のある子どもへのヒアリング	—	—	
(2) 親学習プログラムに参加した高校生の感想	—	—	

※ヒアリング実施当日に出席できなかった方からの書面回答を含みます。

Ⅱ. ヒアリング結果概要

1. 子どもへのヒアリング

(1) こどもワークショップ（公募）

<概要>

小学校5年生から中学校3年生までの子どもを広報誌等で募集し、平成23年12月3日、12月26日、平成24年1月14日、3月26日にこどもワークショップを行いました。それぞれ、4人、15人、9人、17人で、のべ45人に参加していただき、本条例やこどもワークショップの目的を説明し、仲間作りを行いながら、地域や大人へのおもい、友達や自分のことについて、子どもたちの声を聞きました。

<内容>

ワークショップを通じて出された子どもたちの声を事務局でまとめました。

(1) 友達について（第2回ワークショップ）

○「楽しいこと(遊び)」の聴き取りでは、ホワイトボード全面に遊びの名前がでるグループもあるなど、子どもたちが好きな遊びがたくさんある事がわかりました。また、遊びの多くは、友達と一緒に遊べるものでした。一方で、ゲーム機の話題がでると、そこに話が集中するなどゲーム機の人気の高さがうかがえました。

○「悲しい時(楽しくない時)」の聴き取りでは、次のような意見がありました

- ・ケンカした時、一人にいる時、仲間外れにされた時、無視された時、避けられた時、悪口・いやみ・陰口を言われた時、殴られた時、いじめられた時
- ・あまり仲良くない人と話す時、興味の無い話をされた時、知らない事を話された時

*ケンカについては次のような意見がありました

- ・仲が良いからケンカするので、仲直りができる
- ・けんかをしないように、「けんかしそうな人とは付き合わない」「話を合わせる、話をそらす」

(2) 学校について（第2回ワークショップ）

○好きな先生

- ・怒る時は怒り、ほめる時はほめる
- ・楽しくしてくれる、授業で工夫してくれる、説明がわかりやすい

○嫌いな先生

- ・ひいきする、他のクラスや学年と比較する、話が長い、暴力をふるう、機嫌に左右される、意見を聞かない
- ・授業が進まない、授業をどんどん進める

○先生に対する肯定的な意見

- ・「あ、そうだよね」と認められた時は嬉しい
- ・小学校の先生は細かい相談にのってくれる。勉強以外も教えてくれる
- ・信頼できる先生がいる
- ・深刻な話をする時はきいてくれる

○先生に対する否定的な意見

- ・分からない所であたって困る（目が合う）
- ・意見を言いきれない時もある
- ・やらされている感じがする時や行事の練習は楽しくない

(3) 大人に言いたいこと（第3回ワークショップ）

2つのグループにわかれ、大人へのメッセージボードを作成し、特に言いたいことを3つ選んでももらいました。両グループとも3つに絞り込むことができず、どうしても4つのことを伝えたいということになりました。

<グループ1>

○不公平をなくしたい

- ・学校の委員会で、忙しい委員会とひまな委員会に分かれている
- ・女子は怒られないのに、男子が同じ事をするとう怒られる

○自由な時間が欲しい（本を読んだり、遊んだり、ゲームをする時間）

- ・学校の宿題が多い
- ・宿題がわからないため、白紙のまま提出しても、他のプリント等をうつして提出しても注意される。次回の宿題が2倍になったこともある
- ・習い事（サッカーや公文など）もある
- ・居残り授業を少なくして欲しい

○子どもが楽しめる施設が欲しい

- ・公園が少ない（住んでいる地域による）
- ・本やジブリ作品をもっとみることができる場所が欲しい
- ・動物園が欲しい（動物と触れ合える場所）

- ・人が集まる事ができて、子どもは安く（無料）で利用できる場所が欲しい
- ・正月遊びで、「おぼけやしき」と「めいろ」が無くなり嫌だった

○規則が厳しい

- ・豊中市全体が校区になって欲しい（校区外にも遊びに行きたいから）
- ・放課後運動場で自由に遊べない
- ・放課後しか運動場でボール遊びができない

<グループ2>

○第1位「時間」

- ・習い事や宿題があつて、時間が無い
- ・遅すぎなければ、放課後に遊びたい（含む場所）
- ・学校の休み時間をきっちりとして欲しい

○第1位「道路・交通」

- ・危ない道が多い
- ・狭い道を猛スピードで車が走っている時がある
- ・自転車で車道を走る時がこわい
- ・通学路で人通りが少ない場所がある
- ・タバコの吸い殻が歩道にたくさん落ちている

○第2位「先生」

(嬉しいこと)

- ・先生が先頭に立って楽しい事をしてくれる
- ・休み時間に先生と雑談ができる
- ・先生が生徒一人ひとりのことを見ている
- ・すぐに先生が相談にのってくれる

(嫌なこと)

- ・友達も同じ事をしていたのに私だけおこられる
- ・発言する時間や機会が少ない
- ・他の先生にやって良いと言われたことを他の先生には注意された
- ・小学校の頃は謝ったら許してもらえると教わったのに、中学校では謝ってもすむことじゃないと言われた
- ・たいしたことではないのに長い時間おこられる

○第3位「親・家族」

(嬉しいこと)

- ・家族で楽しくゲームをする
- ・自分の趣味を認めてくれる

(嫌なこと)

- ・話を聞いてもらえない
- ・時々話をにごされる
- ・注意をしてくれるのはいいけど、たまにしつこい
- ・家族が全員そろろうことが少ない

(4) まとめ (第4回ワークショップ)

これまでのワークショップをふまえ、条例制定後にパンフレット等に掲載する「社会」や「大人」へのメッセージについて、3グループに分かれ話し合いました。

これまでの総括の予定でしたが、結果的には新たな意見がたくさん出ました。

	社会について	大人について
グループ1	<ul style="list-style-type: none"> ・お金がなくてもみんなが遊べる場所が欲しい ・社会＝世の中を知る(社会と関わる)機会が欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・不公平やえこひいきをやめて欲しい ・遊ぶ時間が欲しい ・先生が相談にのってくれて、みんなで話し合い、クラスが良くなった ・大人がされて傷つくことを子どもにするのはやめて欲しい
グループ2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけで自由に遊びにいきたい ・勉強や宿題が少ない社会が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人からの虐待をやめて欲しい ・戦争反対 ・あまり怒らないでほしい ・ごみをなくして欲しい
グループ3	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や友達と遊べる場所が欲しい ・困っている人がいたら助け合ったり、協力したりできる、あたたかいまちをつくりたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・不公平をやめて欲しい ・人の事を言えないのに言うのをやめて欲しい ・ニュースになるような事をしないで ・大人だけが偉いのではない。子どもにもみんな平等に接して欲しい ・自分の言ったことに責任を持って欲しい ・子どもの意見を真剣に聴いてほしい

(2) 高校生

<概要>

平成23年10月28日に高校生ダンスフェスタ(*)代表者会議にて趣旨を説明したうえで、アンケート(自由記載)への協力を依頼し、約70枚配布し、45人から回答をいただきました。また、その結果をもとに、平成23年11月25日に同代表者会議メンバーのうちヒアリングへの協力に同意していただいた4人から意見をいただきました。

*ダンスに取り組む青少年グループを公募して実行委員会を立ち上げ、発表のみならず制作過程を大切にしたい高校生世代によるストリートダンスの発表会

<アンケート結果>

○自分たちが育つ中で大事にしたいこと

・家族、友達	6
・親からの愛情	1
・気遣い	2
・周りの人への感謝の気持ち	2
・人間関係	1
・皆で助け合っていくこと	1
・自分の意見(意思)を持つこと	5
・一人ひとりの個性	2
・一人ひとりの気持ち	1
・いろんなことを体験すること	1
・命	1
・笑顔	1
・夢	1

○大人や周囲の人から尊重してほしいこと

・子どもの意見も尊重してほしい	5
・個性、またそれをちゃんと出せる環境	3
・私たちが思っていること、考えていること、頑張っていること	3
・見た目で判断しないでほしい	1
・大人の一般常識を押し付けないでほしい	1
・大人は子どもの話をちゃんと聞いてないと思う。途中で反論するのではなく、ちゃんとした立場で話をしてほしい	1
・とりあえずどんな意見を言ってもそれを聞いてあげようと思ってほしい	1
・子どもがやりたいことを反対せず、やらせてほしい	1
・子どもに干渉しすぎないでほしい	1
・一人でも生きていけること	1
・子どもたちが気軽に相談できる窓口を電話だけでなく、学校など子どもたちの身近に創設してほしい	1
・友情	1

○幸せを感じる時

・友達といるとき、ワイワイ楽しく笑っている時、しゃべっているとき	12
・部活をしているとき(ダンスを踊っているとき)	4
・毎日が充実しているとき(部活・バイト・遊んで充実した日々)	2
・授業を受けたり放課後グダグダするとき	1
・ご飯やお菓子をたくさん食べたとき	5
・寝ているとき	4
・家族と毎日過ごしたり話したりするとき	4
・家にいるとき	2
・今の生活	1
・笑っているとき	2
・一生懸命頑張った後	1
・自分の目標などが達成されたとき	1
・悩みがないとき	1

○大人へのおもい

・子どもの話をちゃんと聞いてほしい(将来のことなど)	5
・子どもの思っていることを考えてほしい	1
・子どものいい所をもっと見てほしい	1
・自分がやりたいと言ったことをやらせてほしい	1
・自分が歩んできた道が一番正しいと思っている	3
・自分勝手なところや決めつけることを直してほしい	1
・「今の子どもは…」というが、大人も考え直してほしい部分がたくさんある	1
・話が長い	1
・大人は信用しない	1
・知事などがもっと考えて決めごとしてほしい(廃止する建物など)	1

○住んでいる地域へのおもい

・平和だと思う	1
・近所の人が温かく話しかけてくれるし、周りの人たちが温かい	1

○地域にあったら良いな～とおもうもの、こと

・自習室など勉強する施設(塾に行っていない為)、勉強していても追い出されない場所	2
・こども相談室など、気軽に聞ける場所	1
・「夢つながり未来館」のような施設 (*)	1
・皆で話したりしていても怒られない場所	1
・いつでもダンスができる環境	1
・安全な場所を増やしてほしい(バスがよく通る道に歩道を作る)	3
・劇場などミュージカルなどを見ることができる所	1
・ショッピングセンター	1
・周りの環境がよいほうなのびのびできる	1

* 大阪府吹田市の青少年支援(青少年活動サポートプラザ)、子育て支援(のびのび子育てプラザ)、図書館(山田駅前図書館)の複合施設

○現在や将来への不安や心配なこと

・最近の大人は子どもをなめすぎている	1
・大人の思いやりがなくなってきたこと	1
・将来は美容師になるのでなってからが続くか不安	1
・将来、公務員等になれたとしても、どうやって生活していったらいいのか分からないほど不安定な世の中になっていて不安	1
・自分のやりたいような物事ができるか	1
・職業体験してみたい。進路が、夢がない	1
・将来、一人ひとりが幸せになっているか不安。こういう(ダンスフェスタのような)一から自分たちで進めていくことがとても良いと思うし、ありがたいみも分かるのもっとこんな機会を増やしてほしい	1
・大人になったら今の子どもときの考えなど変わってしまうのは悲しいと思う。ダンスフェスタはすごい準備など大変だし会議会場までが結構遠くて大変だけれど、ダンスフェスタが終わるととても達成感があると思う	1
・事件・事故が減ってほしい	1

○将来に夢や希望が持てるようになるためにあったらいいなと思う地域のしくみ

・みんな元気よく(大人も子どもも)挨拶ができる、挨拶をし合う明るく楽しい地域に住みたい	3
・地域の大人が子どもに(自分の子どもではなくても)しかることのできる社会は素敵だと思う	1
・いろんな年代の人たちが交流できる場	1
・住んでいるところが、もし、よい環境でなかったりすると、気分的にもさがってしまったりもするし、将来にも影響してしまうので考えてほしい	1
・もっと子どもが活躍する場面を設けるべきだと思う	1
・自分たちのやりたいことをしっかりできるような環境	1
・余計なことはしないほうがよい	1

○その他

・ダンスフェスタのような自分たちで作り上げるものは楽しい	1
・みんなで協力して、一つのものを作り上げたい	1

<ヒアリング結果>

○居場所が無い

- ・同じ事をしていても大人は何も言われぬのに、高校生が集団でいると追いだされる
- ・ダンスなど好きな事をできる場所がない

○高校生になると大人が真剣に向き合ってくれない

- ・将来の事を一緒になって考えてくれる大人がいない。熱心に向きあってくれない
- ・個性や素質をみてくれない
- ・自分の進路は自分の決めたいようにと言いつつ、進学校から専門学校への進学を希望すると反対される

○大人は身勝手

- ・挨拶しろというが、こちらが挨拶してもちゃんと挨拶を返してこない
- ・大人の都合で、子ども扱いされたり、大人扱いされる

○中学生は守られていると思うが、高校生は良い顔されない。偏見があると思う

○将来への不安

- ・今の政治は無責任。自分達の将来にかかわる事だから、自分たちも選挙権が欲しい
- ・職業体験をしたい。失敗の許されない時代だから、今から将来の事を考えたい

○その他

- ・自転車は車道を走れと言うが、車道を走るのは危険だし、車からクラクションを鳴らされる。路上駐車があるとさらに危険

○以上のことから、単なる空間的な居場所の問題ではなく、社会的居場所が無いと感じる

<平成23年度の高校生ダンスフェスタの様子>



(3) 新成人

<概要>

平成23年 11 月28日にはたちの集い企画委員会(*)で趣旨説明及びヒアリングへの協力を依頼し、平成 24 年1月 25 日に同委員会に参加していた4人から意見をいただきました。

*成人式の一環として行うお祝いイベントである「はたちの集い」の企画・運営を担当する新成人の委員会

<子ども時代の想い>

1) 友達について

- 内申点を気にして、中学3年生になると良い子のふりをしている友達があった
- 自由な校風と思われている進学校(高校)に通っていたが、良い生徒があたりまえという雰囲気自分たちで作っており、互いの首を絞め合っていたように感じる
- いじめられるのが嫌で本当の自分を出せなかった
- 友達から悪口や陰口を言われて嫌だった

2) 大人について

- 自分の趣味を認めてほしい
- 見た目判断しないでほしい
- 大人の常識を押し付けないでほしい
 - ・大人は自分が一番正しいと思っている
- 子どもの意見を聴いてほしい
- 子どもの気持ちを尊重してほしい
 - ・トップクラスの進学校に行くのが嫌だったので、中学3年生の時、わざと成績を落として、受験できる学校のレベルを落とした
- 必ずしも大人に相談にのって欲しいわけではない

3) 学校について

- 高校一年生の時、将来の幸せのために、高校3年間は何もかも忘れて勉強するよう言われ、勉強ばかりの3年間で全く楽しくなかった
- 中学時代の先生はみんな好きだが、特定の生徒をひいきする先生は嫌いだった
- 問題行動をおこす生徒の多い中学校だったが、「おまえらも同じ」と全ての生徒を括って判断するような先生は嫌いだった

4) 社会に対して

- 基本的に幸せ
 - ・住みやすくて、治安が良い
- 色々なところで職業体験をしたかった

(4) 外国にルーツを持つ大学生等

<概要>

平成23年10月23日にとよなか国際交流協会で開催するボランティアスタッフ等に趣旨説明及び協力依頼を行い、平成23年12月11日に外国にルーツのあるボランティアスタッフ6人、日本人のボランティアスタッフ2人、センター職員1人から意見をいただきました。

このうち、外国にルーツのある4人の大学生等のヒアリング結果およびヒアリングに参加できなかった外国にルーツのある7人の大学生等から書面でいただいた意見をまとめました。

<現状>

外国にルーツを持つスタッフの体験談 (全員が渡日時は他市に居住)

1) 友達について

- 転入時には、友達が近寄ってきたが1週間で離れて行った
 - ・嫌われたわけではないが、話せないから近寄って来てくれなかった
- 友人関係に戸惑いを感じた
 - ・文化や考え方の違いが大きい
- 友達とケンカしたときに、言いたいことが言えず悔しい思いをした

2) 学校について

- 母国と教育進度が異なるのに、確認もされず、通常カリキュラムに入った
- 教師は子どもにとって絶対的存在。教師の対応によるところが大きい
 - ・いじめを受けても味方になってくれない先生がいた。学年が変わり、自分のことを理解してくれる先生に出会って、友達も変わったし、自分自身変わることができた
- 教師が相談にのってくれないと、どうすることもできない
 - ・言葉の壁は乗り越えないといけませんが、子どもにとって大きな壁。しかし、親もしんどいので、相談できなかった。相談できるのは教師しかいなかった
 - ・特別な対応を望んでいるのではなく、傷ついた心のケアを身近な先生にして欲しい
言葉が通じなくても、親身になって対応してくれるだけでもよい

3) サポート体制

- 通訳派遣等のサポートは利用期間が限定される
 - ・子どもが日本語を使えるようになるとともに、両親とのコミュニケーションが難しくなる
 - ・親と教師間のコミュニケーションが図れず、教師は現状を把握できない
- 渡日後、日本で生まれた子どもに対してのサポートがなく、課題が見過ごされることがある
 - ・家庭内では母国語のため、日本語が十分身に付かないまま小学校に入学するため、勉強についていけない

- ・日常会話はできるようになっても、抽象概念が育っていないケースが多いため、文章問題が解けない
- ・上記及び落ち着いて勉強できる環境がないことが、学力不足の原因だが、努力の問題や発達障害の問題として扱われることがある

4) 家庭

- 母親が学校からのプリントを読めずに、必要書類を提出できない
- 親は頑張っ、子どもが日本語を話せるようにするが、母親が日本語を話せず、結果、親子間のコミュニケーションがとれなくなることもある
- 親が通っていた母国の教育システムと異なるため、日本の教育現場を親は理解できないし、学校で話しても理解してもらえなかった。
- 親の都合で日本に来たのにと不信感を感じたこともある
- 怪我をして帰ってきてても親に言えなかった。親に謝られるのが嫌だったし、いじめられてゴメンと思っていた。結果、自分が嫌になった
- 親の意向でルーツを隠そうとする事もある
 - ・子どもとしては、自分にひきめを感じるし、結果として問題が見えにくくなるのではと思う

5) 地域、社会

- 習慣や文化の違いに戸惑った
 - ・近所との付き合い方、自治会活動が理解できない
- 外国人と言うだけで自分の責任にされたことがある
- 母国のマイナスイメージのニュース報道がでるだけで話をしてくれない人もいる
 - ・マイナスの記事をストレートに子どもに言う大人もいる(⇒大人への不信感)
- 親が外国人というだけで拒否される
 - ・子どもは敏感でデリケートな存在。些細な一言が大きく影響する

6) 自分自身について

- 上記のようなことから、自分のルーツに誇りを持ってない
- 学校でも家庭でもしんどい時、第三の居場所が欲しかった
- 日本の子どもとは悩みの質が違うために、周囲に悩みを理解してもらえない

とよなか国際交流協会のイベントに参加している子どもの様子から

- 友達のことと悩んでいる子どもがいる ⇒「違い」を理解してくれる友達が少ない
 - ・スタッフが自分のルーツを話すと、本音を話してくれた
 - ・同じ状況の子どもの参加状況を気にする
- 「違い」を認めてくれる場は、子どもにとって解放の場であり、自分の意見が言え、子どもたちは、イキイキと活動していた

(5)ひとり親家庭で育った大学生等

<概要>

社会福祉法人豊中市母子寡婦福祉会で行った研修会「子どもの目から見た母子寡婦家庭」の内容についての情報を提供いただき、条例の参考となる部分を事務局でまとめた後、研修を担当した団体に内容及び追加事項がないか確認をお願いしました。

なお、研修内容は、母子寡婦家庭で育ち、現在、ひとり親家庭の子どもたちへ教育的な支援を行っている団体に在籍する6人の体験談を学ぶというものです。

<現状>

○ひとり親家庭と一言で言っても、それぞれのケースにより状況は異なる

- ・婚外子、離婚、死別などひとり親家庭となる理由が様々
- ・親権者の収入、養育費の有無、祖父母などの支援者の有無
- ・ひとり親になったタイミング(子どもの年齢)や、それまでの親との関係性、兄弟の有無、兄弟との関係性

○親自身が忙しい事が多く、子どもが寂しい思いをしている場合がある

○引っ越した場合、友達がいなくなり、外での居場所がなくなる。家庭でも居場所が無い場合は、その子どもは、全ての居場所を失う場合がある

○親の言動や家族の人間関係が子どもに影響を与える

- ・生き辛さや孤立感を感じていても、明るくふるまえる親とそうでない親がおり、親の姿が子どもに影響するケースが多い
- ・親の頑張りや子どもに伝わる
- ・親の孤立感から虐待に至るケースもある
- ・家庭が子どもにとっての居場所となるかどうかは、親の言動や家族の人間関係次第
- ・子どもが周囲の関心を引くような行動をとることがある
- * 上記のような事から、子ども自身が落ち着いて勉強できる状況にないことが多い

○親自身が生き辛さを抱えている事も多い

○良い子を演じる場合もある

○親に心配や迷惑をかけたくなかった

○親に気を遣って本音を話せない

- ・親も大変だと思う
- ・親も頑張っている
- ・親が2人いたら、一方に対する不満をもう一方に伝える事ができるが、それが出来ない
- ・親にとって自分が生きがい。自分が崩れたら終わりと思っていた

○経済的問題が非常に大きい

- ・小さいころは、それが当たり前とっ思っていても、大きくなるに従い苦しさがわかる
- ・塾代、クラブの合宿代や用品代など払っつてとは言えない
- ・将来を左右する進学に多大な影響を与える

○ひとり親であることを伝えるのが面倒(言うのが嫌という事ではない)

- ・へんに気を遣われたくない
- ・苦勞している、かわいそうと思われるのが面倒くさい
⇒気軽に相談できない(当事者同士だと楽に話せる)

○離婚は、子どもの事をしっかり考えてするべき

- ・離婚を否定するわけではないが、タイミングにより、子どもに与える影響が異なる
- ・DV ケースなど、親が離婚することで、子どもがストレスから解放されることもある

<必要な取組み>

○親に対するサポートが必要

○子どもの逃げ場所や居場所が必要

- ・様々な相談機関や連携が必要
- ・当事者同士でつながれる場所、機会

○ひとり親家庭で育つた子どもが、生計をたてながら、ひとり親を支援できるような支援者の循環が必要

○年齢が近く、尊敬できる人から言われると話を聞けるので、関係性づくりが大切

○子どもに対する学習支援

○ひとり親家庭は、一つの家族のスタイルだと考えてほしい

2. 保護者へのヒアリング

(1) 大人ワークショップ(公募)

<概要>

18歳未満の子どもの保護者を広報誌等で募集し、平成23年11月26日に南部地域(19人)、11月30日に北部地域(11人)、12月8日に中部地域(7人)において、大人ワークショップを行い、子どもたちの現状、子どもの育ちに大切なこと、子どもの育ちを支えるために大切なことなどについてご意見をいただきました。ヒアリング結果は、16ページから23ページをご覧ください。



(2) 豊中市PTA連合協議会

<概要>

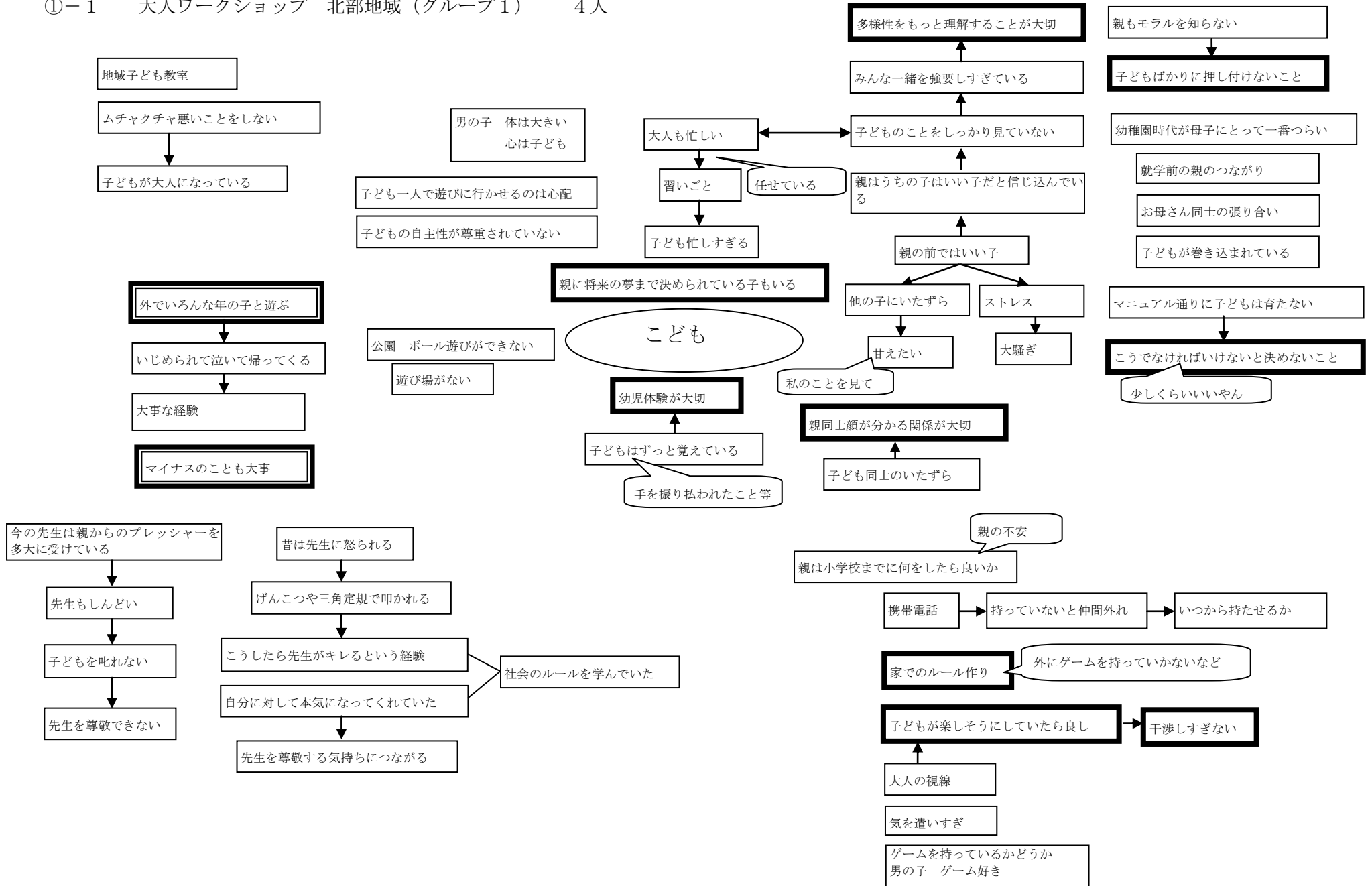
平成23年11月8日に豊中市立幼稚園、小学校、中学校のPTA連合協議会の役員会にて趣旨を説明のうえご意見をいただきました。当日の出席者の内訳は、幼稚園2人、小学校6人、中学校7人の計15人でした。ヒアリング結果は24ページをご覧ください。

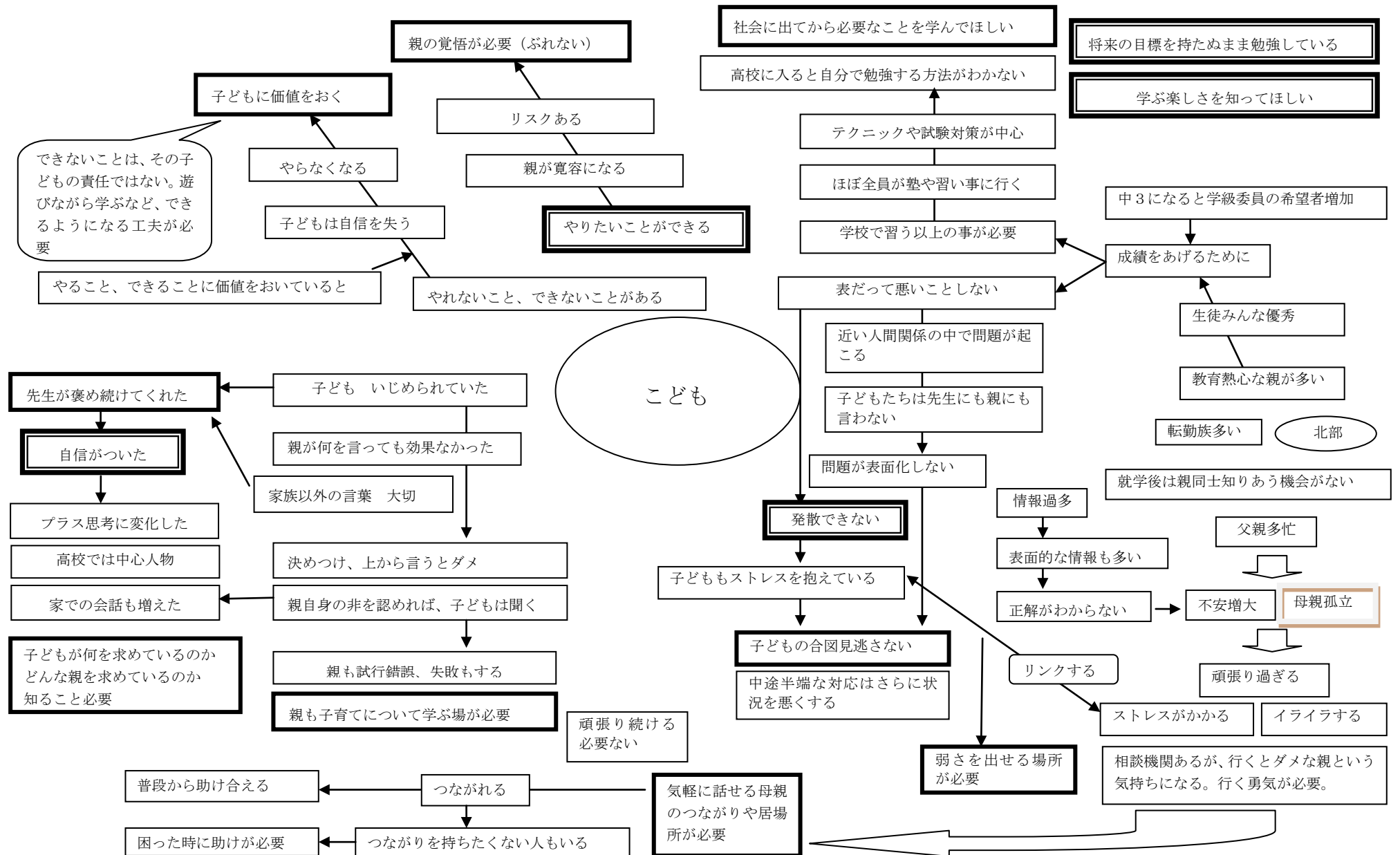
大人ワークショップ及び豊中市PTA連合協議会のヒアリングでは、様々なご意見をフリーディスカッション形式でいただきながら、ホワイトボードに要点をまとめるという形式で実施したため、本報告書につきましても、ホワイトボードの内容を再整理し、図式化したものを掲載しています。

【図の見方】

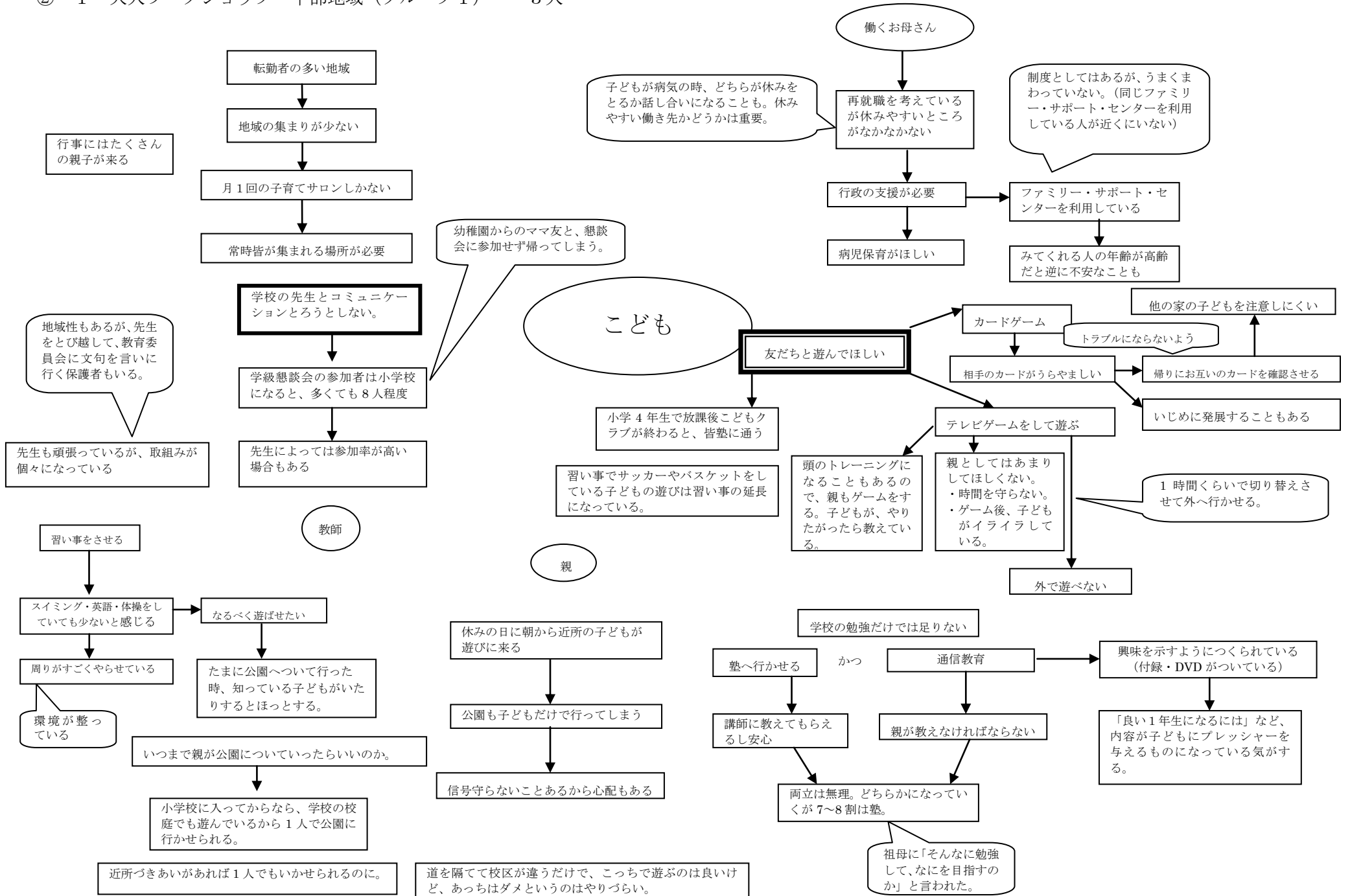
原則、中心部分に子どもの姿、その周辺に子どもを取り巻く状況を記載しています。また、 は、子どもたちに大事にしてほしいこと(含む問題点)を示しており、 は、子どもの育ちをささえるために大人が気をつけるべきこと(含む問題点)を示しています。

①-1 大人ワークショップ 北部地域 (グループ1) 4人

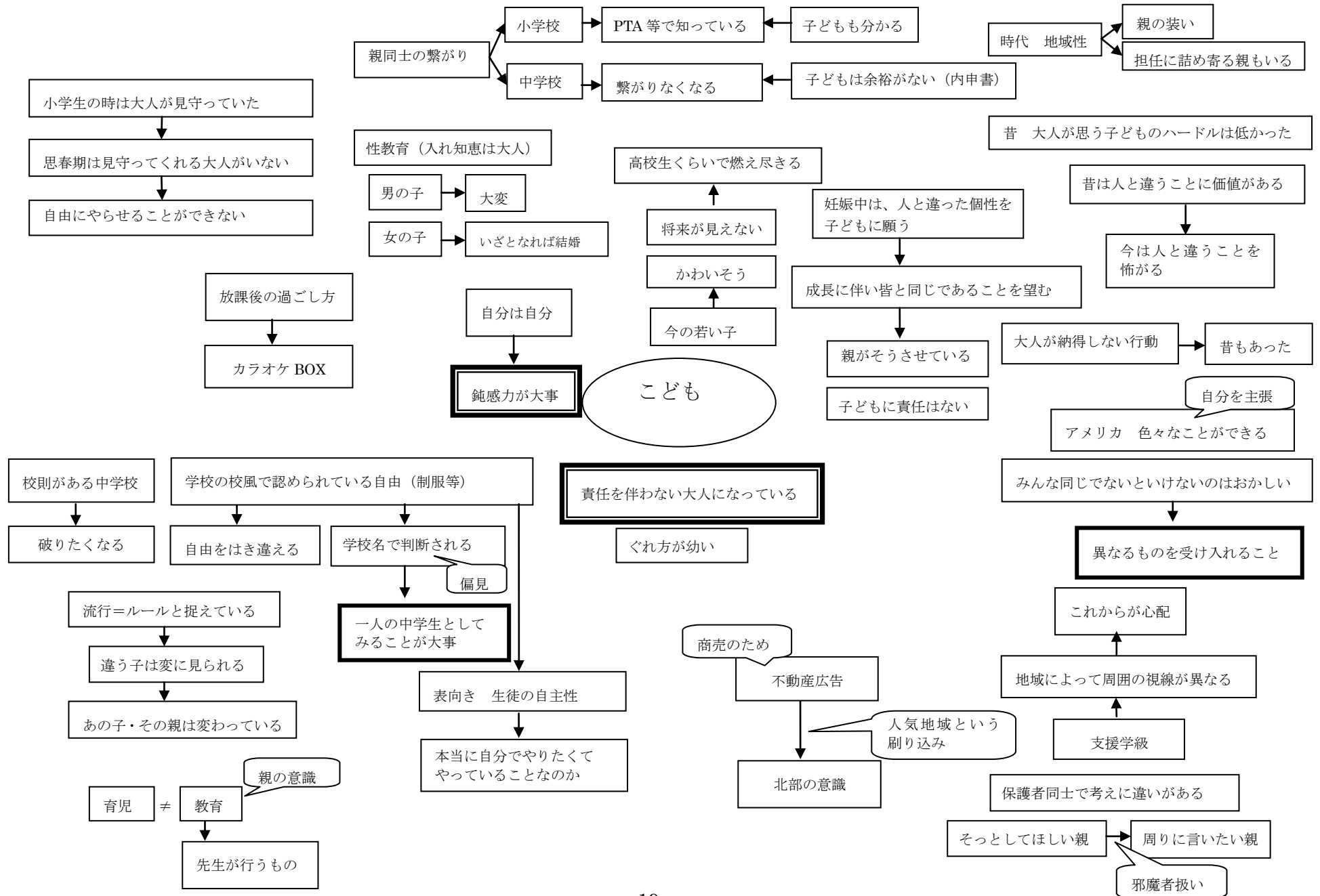




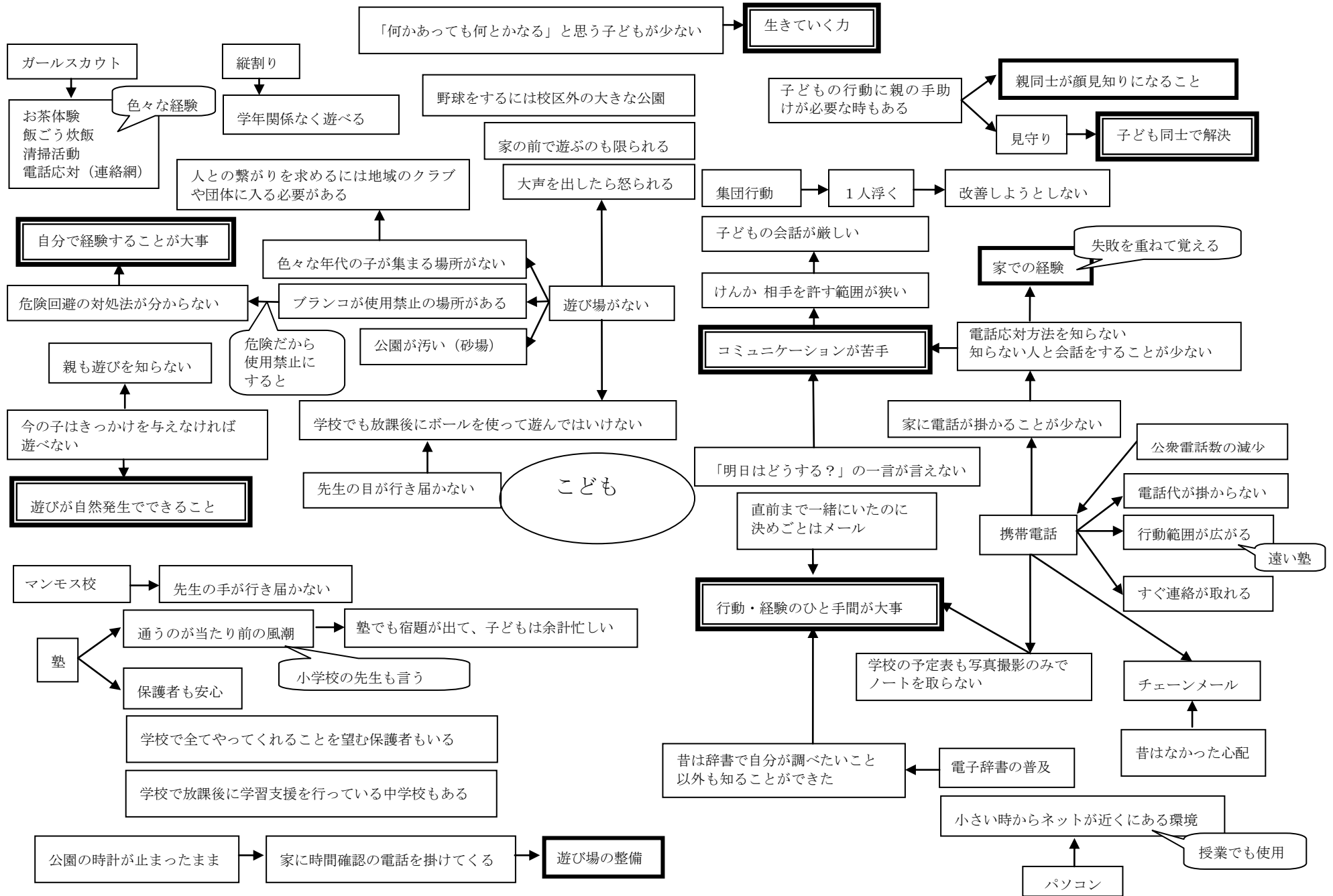
②-1 大人ワークショップ 中部地域 (グループ1) 3人



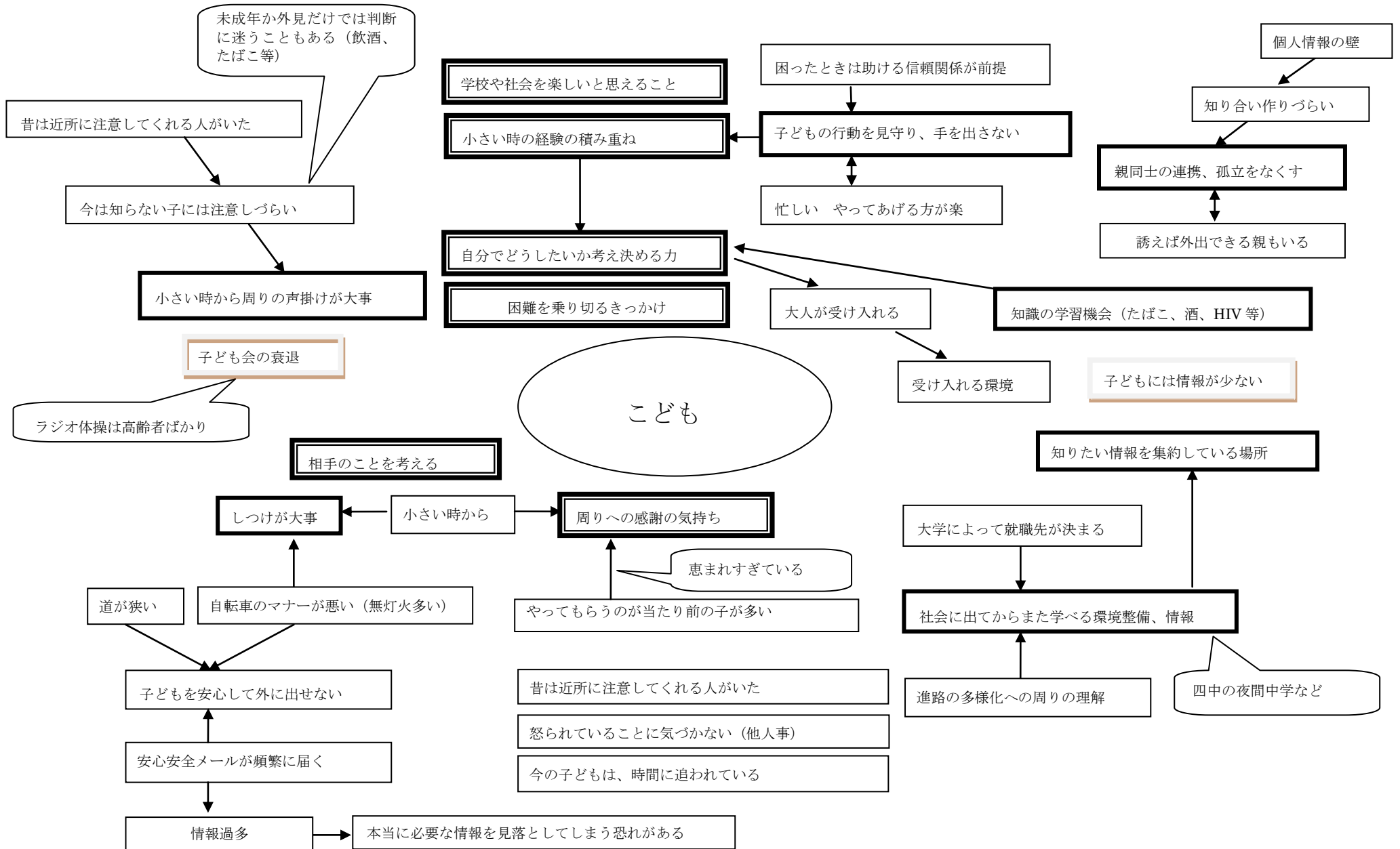
②-2 大人ワークショップ 中部地域 (グループ2) 4人



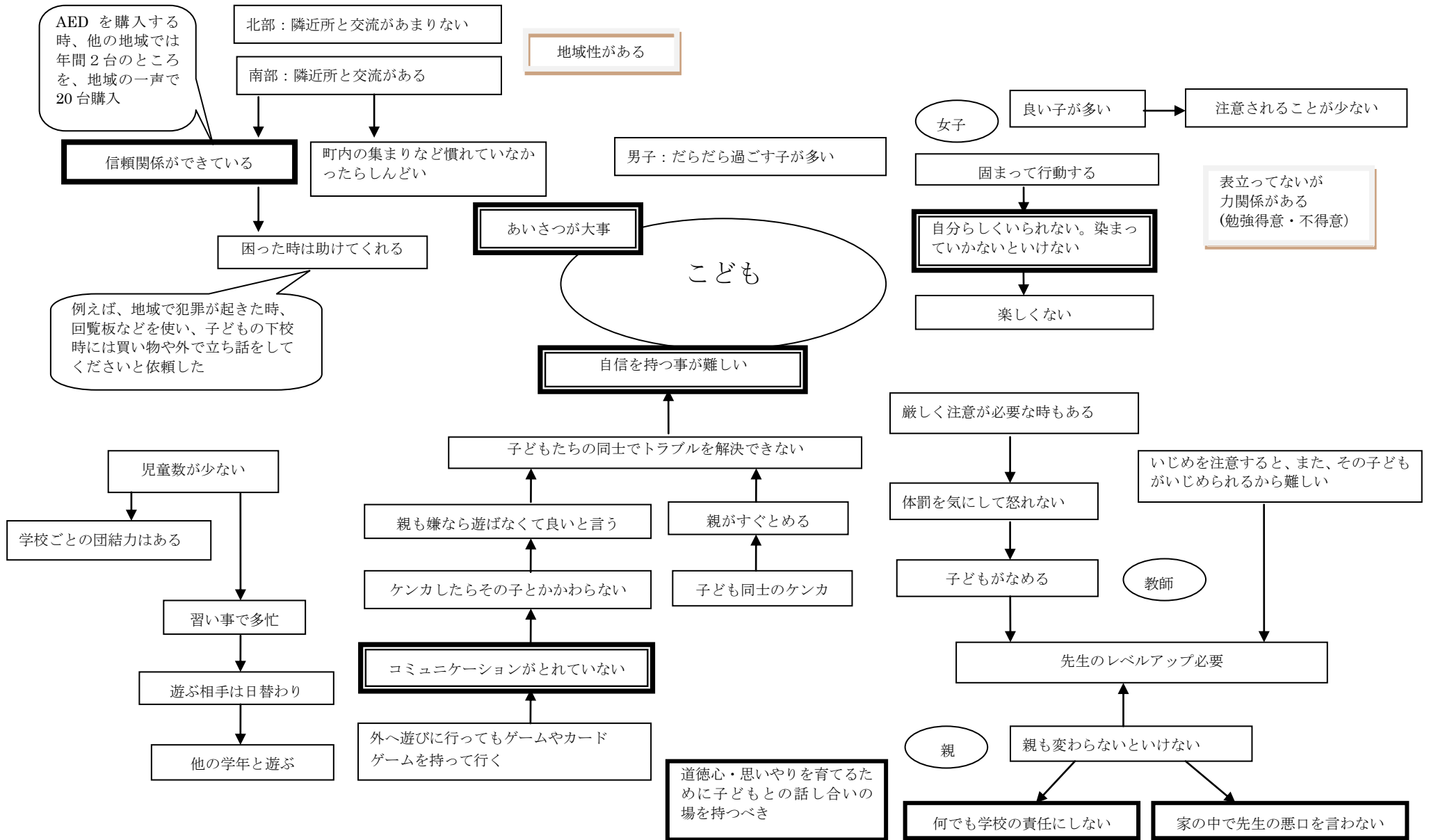
②-3 大人ワークショップ 中部地域 (グループ3) 4人



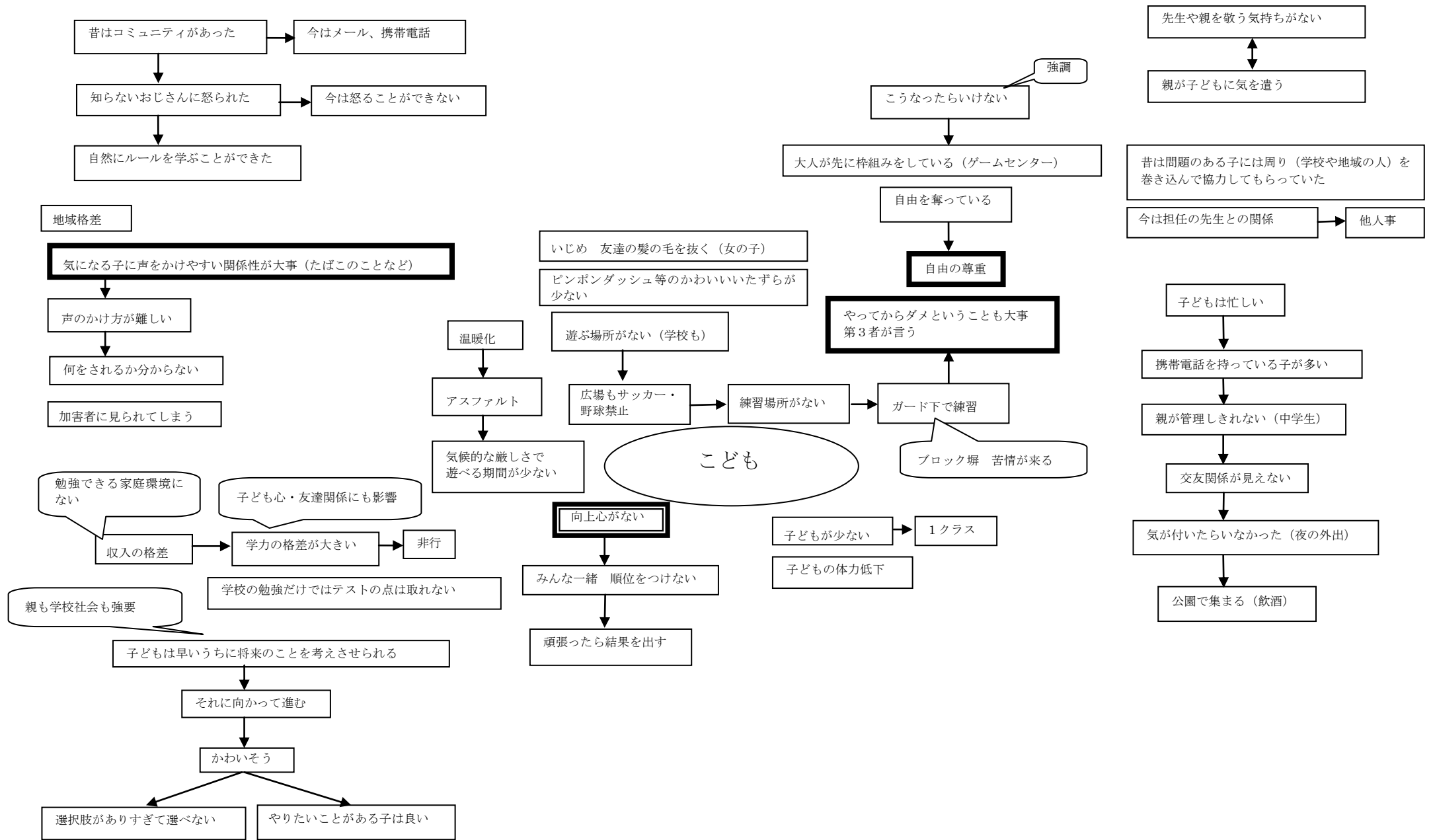
③-1 大人ワークショップ 南部地域 (グループ1) 6人



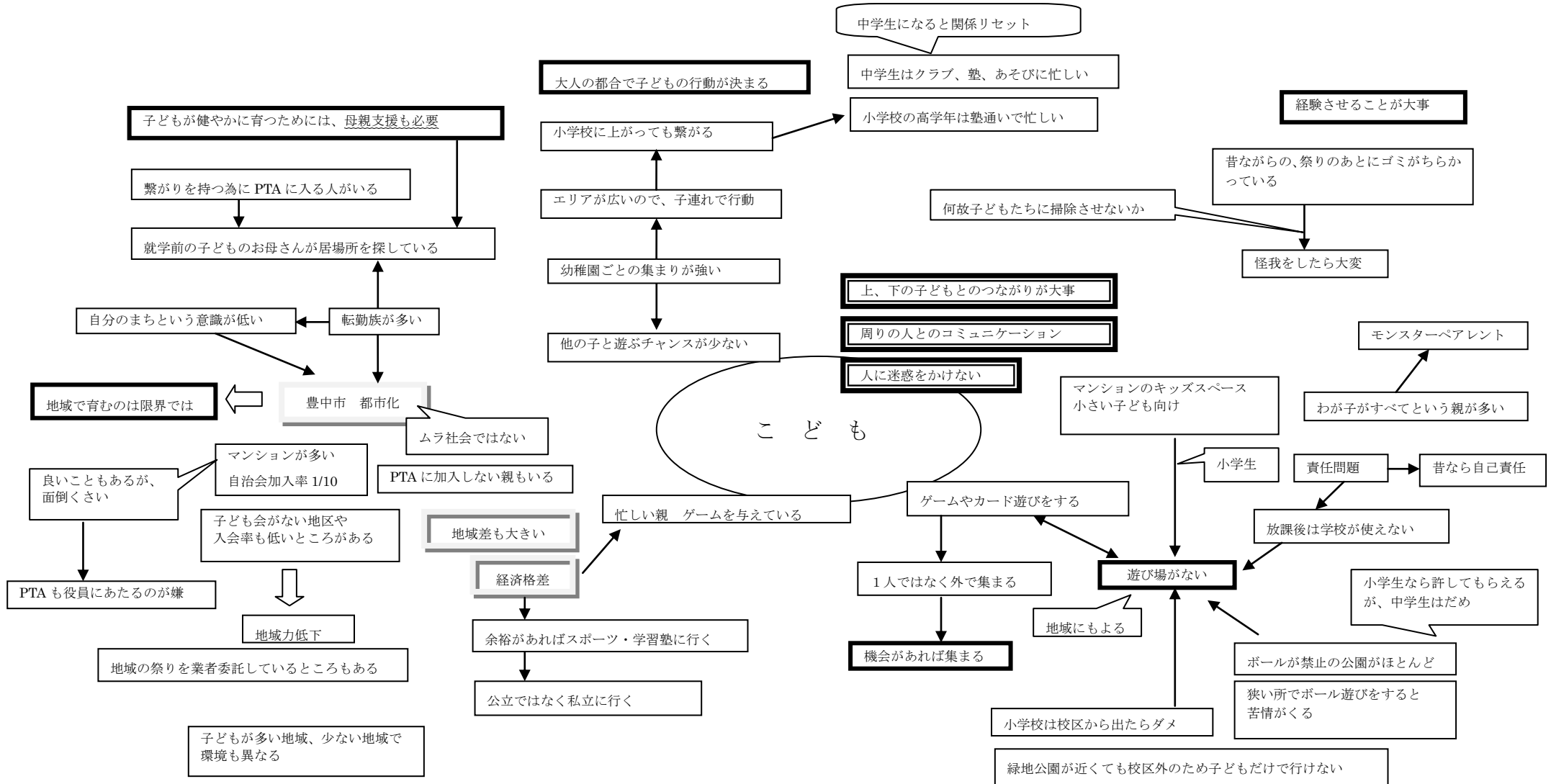
③-2 大人ワークショップ 南部地域（グループ2） 6人



③-3 大人ワークショップ 南部地域（グループ3） 7人



(2) 豊中市 PTA 連合協議会 15 人



(3) 障害児の保護者

しいの実学園 保護者

<概要>

平成24年1月17日に肢体不自由児通園施設しいの実学園に通園する子どもの保護者6人に条例の趣旨を説明し、ご意見をいただきました。また、ヒアリングに参加できなかった保護者1人から後日書面にてご意見をいただきました。

<内 容>

社会に出た時に、みんなが一緒に過ごせる、一緒にいるのが当たり前になれるようそのベース作りが必要である。

1) 健常児との交流が重要

○障害者だけで集まっていたのでは孤立してしまう

○友達と一緒に過ごせる関係性が必要

○子ども同士の関わり合いが必要

○障害を持っていても地域の学校に通ってほしい

・子ども同士のつながりを持って欲しい

・どこまで受け入れてもらえるか不安

・学校のハード整備が必要

・介助員を配置してくれるか入学前に確定してほしい

・看護師を常駐させてほしい

・いじめられる(弱者になる)可能性がある。きょうだいが対象になる場合もある

○もっと容易に、しいの実学園と保育所の両方に通える仕組みにしてほしい

・しいの実学園だけだと障害児とその親だけの関係になってしまう

○段階的な取組みが必要

・小さいころから障害児と健常児と一緒に過ごす事が重要

・障害児は珍しくない、同じ人間だという理解、意識づけが必要

・保育所に0歳から入っていると周りの子は、自然に理解している

・公立保育所は、比較的障害児と過ごす機会が多いが、在宅、私立保育所、幼稚園は接することが少ない

・障害児と接した経験のない子どもは興味本位で障害児をみる場合がある。また、親も子どもにどう伝えたら良いかわかっていない

・小学校入学前にプレスクールみたいなものがあると良い

2) 親と子が離れていくことが重要

- 離れる時間が無いと、子どもの自立心が芽生えない
- 親の時間的余裕が無い
- 親もストレスを抱えている場合がある

3) 学校について

- インクルーシブの取組みは、みんな一緒が基本だが、必要に応じて個別学習、例えば生活力を習得できる学習などが必要
 - ・授業内容がわからないのに、教室にいるのはどうか
 - ・健常児が支援学級に入って交流することも大事
- 友達関係の構築が必要
- 学力も大事なことだと思うが、勉強ができる頭の良い子より、心が健康に育つよう指導して欲しい
- 子どもに色々な体験をさせ興味を持たせる事が重要であり、交流できる場が必要
- 社会を生き抜く力を付けて(学んで)欲しい

4) 地域でのつながりが必要

- 地域全体での取組みが必要
 - ・興味のある人はフォーラム等に参加するが、そうでない人は参加しない。興味のない人たちに関心を持たせることが必要
- 家で子どもに教えないといけないことが、教えられていない家庭も多い
 - ・親教育が必要
 - ・親自身が障害児とどう接して良いか分かっていないので、子どもにも教えられない
- 障害児は暗いイメージがあるが、元気に育っていることのアピールが必要

5) その他

- バリアフリーの整備をしてほしい
 - ・公園の入り口など、ガタガタの所がある
 - ・車いすトイレはあるが、おむつ交換などができる介助用トイレが無い
- 学校でのアレルギー給食を実施してほしい
- 公立の学校のトイレは古すぎる。毎日使う所こそ清潔なものがよい

豊中市身体不自由児者父母の会

<概要>

平成23年1月24日に豊中市身体不自由児者父母の会にて、メンバー8人に条例の趣旨を説明し、ご意見をいただきました。

<内容>

1) 周囲とのつながりが重要

○地域の学校で、地域の子ども達と交流することが必要

- ・勉強する事も大事だが、一緒にいて相互に理解することが必要
- ・学校では、勉強だけではなく、味方になってくれる友達を増やす事が大事
- ・夏休みのプールなど、最初は先生が誘いに来てくれたが、そのうち、子どもが迎えに来てくれるようになり、プールも一緒に入ってくれたりした
- ・支援学校は、本来不要だと思うが逃げ場として必要

○地域でつながる必要がある

- ・知り合いができる事で、つながることができ楽になった
- ・周囲から声をかけてもらえるかどうかで全く違う
- ・怪我が怖いから周囲は消極的になると思うが、一人でも理解してくれる人がいたら、そこから広がり、周囲の理解が広がる。周囲の理解が広がると、つながりを持つことが出来る
- ・周囲とつながりがないと、災害にあった時に存在を認識されない
- ・つながるためには自分から動かないといけない
- ・障害児が外にでて、障害を隠さず伝えることで知ってもらえることができる

2) 小さいころから地道な取組みが必要

○保育所や幼稚園は、子どもにとって人権や権利を学ぶ場

- ・みんなが普通に接することが重要
- ・興味のある時に正しく伝える必要がある
- ・子どもを通じて親が学ぶことができる

○子どもたちは障害者に近づいてくる、その時に正しいことを伝えることが重要

- ・大人はたてまえだけだが、子どもは本音で話してくれる

○何年もコツコツ取り組む必要がある

3) 親として

○進路を決めつけない、子どもがどこまで出来るのか、親がしっかり考える必要がある

○障害をもったら、支援学級という親の認識をかえる必要がある

4) 学校について

- 小学校は良いが、その後どうするか悩む
- 中学校になると、勉強が忙しくなる
 - ・成績が落ちるからと、つきあわせない親がいた
 - ・先生にも子どもにも余裕が無い
 - ・子ども自身がストレスを抱え、そのストレスが弱者にむかう
- 学校を卒業した後の事を考える必要がある（小学校から高校迄の12年間の重要）

5) 障害児や保護者の気持ちになって考えることが大切

- 運動会で健常児と一緒に競技を行うことが、必ずしも平等ではない
 - ・みんな拍手するが、自分の子では無くて良かったという思いを感じる
- 障害児中心の取組みを行ってもらい、親としても喜んでいたが、子どもにとってはあまり良い思い出では無かったようだ

6) 社会全体について

- 障害者に対する本当の気持ちは、自分に関係する問題に直面しないと分からない
- 人権の本当の意味を理解しないといけない
- 人権への取組みが進むと、問題や課題が表面化しにくくなる場合もある
- いじめは障害者だけの問題ではない
- 障害者にやさしい人は、何に対してもやさしい

7) 最終的には、1人ひとりの気持ちが大事

- 学校の先生の気持ちによるところが大きい
 - ・授業に応じて、ひろがり学級（当時）と普通学級を使い分けてくれた
 - ・子ども達が、ひろがり学級に遊びに来てくれるようになった
- 1人が動いてくれたことで、周囲の人の理解が広がった

8) これまでの活動を振り返って

- 昔は親と障害児がずっと一緒に家の中にいて外出することが無かったが、今は駅などの施設も整い、外出しやすくなった
- 昔は外を歩いていると視線を感じたり、障害がうつるなど言われたが、今は周囲の人も障害者と出会う機会が増えたのか、見方が変わってきたと思う
- 昔は階段の昇降で車いすを持つのを手伝ってと頼みづらかったが、今は声をかけてくれる人が増えた
- 昔は制度や施設整備が整っていなかったので選択肢がなかったが、今は、選択肢があり、かえって悩んでしまう
 - ・豊中市は他市に先駆けて、障害児が地域の学校に通うことができたと思う。

マイ児童デイ主催の家族交流会

<概要>

平成24年1月25日にマイ児童デイの家族交流会の参加者2人に、参加の趣旨を説明したうえでご意見をいただきました。

<内 容>

1) 地域の中で生きていくことが大切

○みんなと一緒に過ごす事が大事

- ・コミュニケーションをとる
- ・障害があることで、ケンカをする機会がないが、その事で学べないこともある

○親以外の人との関係づくりが大切

2) 学校について

○地域の小学校に通って良かった

- ・無理だと思っていたが、友達と接することで、言葉を発したり、文字を書けるようになった

○中学校は進学優先であり、生徒数も多い。支援学校も選択肢として考えないといけない

- ・学校も友達の事も好きだし、友達も色々手伝ってくれる

○勉強よりも生きていくための訓練を今のうちから積ませたい

- ・学校の勉強だけではなく、療育の専門家を学校に派遣してほしい

○障害児の教育方針は学校によって異なる。全てのカリキュラムが健常児と一緒にだと、将来のことを考えると地域の学校にはいけない

3) その他

○18歳までは学校やデイサービスもあるが、その後の支援も必要

- ・仕事に行った後の時間や休みの日のサポートが必要

○曜日により、通う場所やイベントがあると曜日感覚を養うことができ、外出することは大切

○預ける事とふれあいのバランス必要

広汎性発達障害者(アスペルガー症候群、高機能自閉症など)の家族交流会

<概要>

平成24年2月20日に豊中市社会福祉協議会が行った「広汎性発達障害者(アスペルガー症候群、高機能自閉症など)の家族交流会」で、子どもの世代別グループワークに参加させていただき、条例の趣旨を説明したうえで、13人の保護者からご意見をいただきました。

<内容>

1)子どもについて

- 言葉の遅れがあり意思疎通ができないため、対人関係が心配
- 大人が介在した人間関係ならば大丈夫だが、子どもだけの時間が不安。しかし、将来のことを考えると、子どもだけで関われる訓練の場所が欲しい

2)親について

(子どもとの接し方)

- 子どものマイナス面ばかりに目がいってしまう
 - ・出来ないところを追いつめてしまう
- 自分自身の感情をコントロール出来ず、子どもに手を出してしまう

(親自身について)

- 親同士の連携が大事
- 親自身が学ぶ場所が欲しい
- 進学先等選択するのは親であり、親の負担は大きい。悩みを聞いてくれる場が欲しい
- 手をあげてしまうこと等、どうしたらいいかわからない。何か解消法を教えて欲しい

3)保育所・幼稚園・学校等について

- 先生のなかには、障害について認識不足の場合がある
 - ・スコアだけを見て大丈夫とか言う場合もある
- 発達障害児に対しての指導方法が先生によって違う
- 教師には子どものことをもっと理解して欲しい
 - ・子どもの良い点、悪い点を両方みてほしい
 - ・子どもが多様化しているので、担任の先生の力が求められる
 - ・加配の先生だけではなく、担任の先生に子どもについて話しておくことが必要

- いじめがあっても教師がいじめ問題として認識してくれない
 - ・友達への関心から友達にちょっかいをかけてしまうが、その結果、友達から反撃されてしまう場合がある
 - ・教師も先に手をだしたことを問題とする場合がある
 - ・先生が目が届かないところで色々されることがある
 - ・いじめられても、本人にその自覚が無い
- モンスターペアレントという言葉が一人歩きして、意見を言いにくい
 - ・不登校は子どもだけの問題ではない。学校に対して、親としてどこまで言って良いかわからない
- 親が自分の子どもの障害を認めることができないと、加配の先生をつけてもらえないケースがあるらしい
- 障害のある子どもに対して、担当の先生が1人ひとり個別支援計画を立てることになっているが、見たことがない人もいる

4) 仕組み・制度について

(情報連携について)

- 小学校から中学校への連絡体制を確実に連携して欲しい
- 様々な機関がバラバラに活動している。成長の段階毎に説明が必要であり、継続した成長の記録を作成し、情報共有して欲しい

(情報提供について)

- 必要な情報が入ってこない
 - ・情報をオープンにして欲しい
 - ・地域の学校では必要な情報が入ってこない(支援学校の方が、情報が豊富)
 - ・インターネットという便利なツールを利用して欲しい
 - ・豊中市は転勤族が多い中で、発達障害に関わる情報が得られにくい
 - ・必要な情報を冊子にまとめて欲しい
- 現在の小学校では、周囲との関係も上手くいっているが、中学校に進学しても大丈夫か不安
 - ・地域の中学校と支援学校のどちらを選択するか判断しないといけないが、判断するための情報が少ない

(その他)

- 将来、就職することを考えた訓練の場が必要
- 豊中市内に療育の手法等を学ぶ場が必要
- 発達障害者に対し、祖父母の協力体制に関わる支援策が必要
- 相談窓口の一元化が必要

ピープルウォーク（自閉症児(者)の福祉の向上を図る父母の会）

<概要>

平成24年5月17日にピープルウォークの定例会にて、メンバー22人に条例の趣旨を説明し、ご意見をいただきました。

<内 容>

- (1) 障害を持った子どもが、地域の中で生活できることが大切
 - 親亡き後のことが心配。地域で生活できる仕組みがあれば安心できるのだが
 - 国の仕組みがコロコロと変わり、その度に事業者も親も振り回されている
 - ・障害の程度区分でサービスが異なるが、程度区分で分けれるものではない
 - プライバシーに敏感な人が増え、子どものことを話したくない人もいる。結果、子どもがいなくなった時に、地域に頼れず、親一人で探さなければならない
 - 昔は、地域のボランティアさんのつながりで、色々な人とつながることができた。人と関わり、何度も経験することで身につくこともある

- (2) 学校卒業後の障害者の居場所が必要
 - 18歳以降の人生の方が長い。将来を見据え、その先のことも考えてほしい
 - 高齢者の施設はたくさんあるが、障害者に関するノウハウは施設によって異なる。どこの施設でも対応できるよう指導して欲しい

- (3) 早期に発見し、早期に専門機関につなぐことが必要

- (4) 親へのサポートが必要
 - 広範性発達障害は概念が難しく、親が判断するのは難しい。また、子どもの障害を親が受け入れることも難しい
 - 子どもの発育状況について親自身悩み、行き詰っていることもある
 - 親にどうやって伝えるか
 - ・保育士等からの声掛け、乳幼児健診時の活用
 - ・新聞のチェックリストで気付いた例もあり、メディアの活用
 - 親が認め、決断することが必要（相談機関が必要）
 - 正しい情報を伝える
 - ・勉強会で子どもの特性を理解し、子どもとどう接するか考えるようになった
 - 1人の親が理解しても、配偶者等に理解してもらえず、追いつめられることもある

- (5) その他
 - 学校によって取組みに格差があるように思う
 - 昔も今も悩みは共通している。親同士が話す場所が必要では

3. 支援機関・団体等へのヒアリング

(1) 地域の子育て・子育て支援団体

＜概要＞地域子育て・子育て支援ネットワーク小学校区連絡会（テーマ「地域でできる支援とは～地域の親子の現状から～」）に北部・中部・南部で各1連絡会に出席し、趣旨を説明のうえ、ご意見をいただきました。連絡会のメンバーは、当該校区内で子育てサロンを運営している地域の方、社会福祉協議会職員、保健師、公(私)立幼稚園職員、公(私)立保育所(園)職員、地域子育て支援センター職員など。

	北 部 (11月8日)	中 部 (11月30日)	南 部 (11月18日)
参加メンバー	地域の方9人、社会福祉協議会2人、保健師1人、保育士等5人	地域の方9人、社会福祉協議会1人、保育士等4人	地域の方6人、社会福祉協議会1人、保健師1人、保育士等3人
地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内でも子どもが多い地域と少ない地域がある ・ある地域は経済的に安定している家庭が多い ・ある地域のある学年が全員私立小学校に行っている等、地域で子ども同士の関係を築く事が難しい ・あるマンションは、子どもは居るが、働いている親が多く、昼間に子どもの姿をみかけない ・こんにちは赤ちゃんで会えない家庭が多い。実家が離れていて帰省していると思われる ・近くに遊ばせる公園が無い地域もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少なく自治会や子ども会加入者も少なくなってきた ・組織的には古くて脱却できない ・PTAになる若い世代が少ない。同じ人ばかりがなっている ・核家族化している ・地域の行事への参加率が悪い ・気軽に相談できる場所(ちょっとしたことを聞ける人・機関)がない ・この地域は遊ぶところがたくさんある ・公園で遊んでいる親子の姿が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区自体子どもの数が少ない ・裕福な家庭、生活困窮家庭などさまざまな家庭が混在している ・転出入が多い ・こんにちは赤ちゃんに行くと、近所に祖父母宅があって助けてもらえる家が比較的多い ・公園は老人の憩いの場になっていて、子どもの姿をあまりみない ・未成年の母親が多い
地域の子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・親にとって地域のおばちゃん的な存在が大事。親同士のネットワークをどうつなげていくのかというところが課題 ・地域の支援者同士の顔つなぎが大事 ・母親も悩みを抱えている。あいさつなど、まずは小さいことから ・子育てサロンで知り合った親子が町中で挨拶してくれる。人のつながりが重要 ・子育てサロンでは、相談ができたり、母親同士が知り合うきっかけになっている ・昔は近所の人子どもを見てくれていたが、今は近所と関わりをもたない人が多いので孤立化してしまうことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人とのつながりが問題。 →サロンなど、勇気を出して来た人がまた次に来たいと思う場所をつくるのが大事 ・顔見知りになることが重要。近所のおばちゃん的な存在が必要なのは ・高齢者と若い母子とのコミュニケーションを図る場として、「遊友」を設置している 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンで知り合った親子と地域で話ができる。気になることがあれば、声をかけることができる ・母親へのフォローは、子どもが小学校に入っても必要。小学校との連携が必要 ・親同士の関係を作る場所・機会が少ない(昔は自然に知り合えた) ・近所づきあいもありない ・子育てサロンにくる親子は身ぎれいにしているが、街中には、そうでない親子も多い。参加できていない親子もいる →参加していない家庭の方が、本当は困っているのでは →余裕がなく、最初の一步を踏み出せないでいる →地域で、サロンの紹介や声掛けしたくなる場面がある(友だち、保健師など知りあいからの紹介が有効)
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが多い地域と少ない地域があるが、公園で子どもが遊んでいる姿をあまりみかけない ・子どもたちは時間に支配されすぎていて、おもいっきり遊べていない。子ども自身も時間をすごく気にする ・マンション内でゲームやローラースケートをしている子どもが多い ・夕方遅くになっても(親が帰ってくるまで)マンションの下で遊んでいる子どももいる。声をかけると喜んで遊びたがる ・(保護者が帰ってくるまで)子どもが集まれる場所が地域に必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・低年齢化している ・保護者にあまり構ってもらっていない子どもがいる ・あいさつをしない、コミュニケーションが苦手な子どもがいる →地域の大人からの声かけも大事 ・世代間交流がない →親が勉強をさせるためなどで地域の行事に参加させていないこともある ・放課後子どもクラブの対象が基本的に小学3年生までなので帰道など心配に思うことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーで遊んでいる子どもはみるが、公園ではあまりみかけない(公園は老人の憩いの場になっている) ・言葉が悪く、乱暴なところのある子どもが、実は人懐っこい ・登校時の子どもをみると身だしなみができていない子どもがいる ・路上にゴミをすてたり、宿題に手をつけていない子どももいるが、声をかけ、どうやるかを伝えると、渋々ながらもやる →できないのではなく、どうして良いかわからないだけでは →方法を親が伝えていないのでは ・子ども同士で仲間作りできない→コミュニケーション力が必要

項目	北 部	中 部	南 部
親の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化、親の子育て力が低下する中、母親も不安を抱えている ・イベント時は参加者が多いが、そうでない時は子どもの姿はあまりみない ・親と子どもが一緒になっての催しで、母親同士で固まって話をしてる事もある。母親自身大変なんだと思う ・子育てサロン等に着飾ってくる ・どろんこ遊びなどに参加しない。一緒に体験しようという意識がなく、遊びを伝えていない。若い親自身の経験がすくない事も影響しているのでは ・お母さん同士のおしゃべりに夢中で、子どもへの注意が向いていない（挨拶をしても、自分たちの世界で、挨拶が返ってこない。） ・子連れで歩いているのに、手もつながず携帯電話ばかり見ている母親もいる ・子育てサロン終了後に、ゴミなどが落ちていることがある ・子どもや遊びを通じてお母さんたちに伝えていく、また、お母さんたちが学んでいくことが大事 	<ul style="list-style-type: none"> ・余裕が無く、相談するにしても本音を言える人がいない ・閉じこもっているお母さんがいる ・ネットの情報を信じすぎている。また、ネットの世界では顔を見なくても相談が出来るから、本音が言える ・お母さん同士の付き合いが狭い。仲の良い人だけ ・幼稚園に行きだしたら、ママ友ができる。（子どもに影響が出るからお母さんは友だちづくりを頑張る。通い始めるまでは努力する人が少ない。） ・子どもとのつながりが深すぎて親が離れがなくなっている ・子どもに期待はかけているが無理にはさせない（危険なことはさせない）という点にアンバランスさがある。←昔と子育ての仕方が変わってきている。子どもの感情を奪っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・出産前後で外出ができずストレスを感じている母親が多い ・育児に自信が無い、育児ストレスを抱えている母親がいる ・子どもの健診時に母親のメンタル面を確認する必要がある ・子育てサロンでは、親子とも身ぎれい ・子育てサロン参加者にも不安を抱えている人がいる →きっちりしないといけないと自分を追い詰めている ・若い母親の中には、自分は出来ていると思っているが、いざ、話を聞くと予防接種の間診票を記入できない母親もいる ・子育てサロンや保育所であれば、スタッフがいるため、何かあれば仲介してもらえると安心感があるという母親がいる →何か問題が生じた時、母親同士で解決が難しい →近所付き合いもあまりない ・親自身が乱暴な言葉遣い →子どもも同じ言葉遣い
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園以下の子どもを持つ保護者との教育の考え方にギャップを感じる。ナンバー1ではなくオンリー1でいいが、周りの子どもと比べたがる 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもに大事にしてほしいこと ・人を大切にしてほしい ・自分を愛せる子どもになってほしい ・自己肯定できる子どもになってほしい ・どんな地域も垣根無く育ててほしい ・一言「ありがとう」が言える人に育ててほしい ・ふれあいを大事にし、思いやりのある子どもとして育ててほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・こんにちは赤ちゃん等の行政からの積極的な情報提供が必要 ・親自身が育ってきた、育てられた環境も大事 ・家族でそろう時間が無い ・ニーズの多様化

(2) 子ども・若者（ニート・ひきこもり等）の支援団体

<概要>

子ども・若者をめぐる状況と自立支援を考える講演会（4回）に事務局が参加するとともに、同研修会にて講演等を行った支援団体4団体にご意見をいただきました。支援団体毎に特徴が異なるため、支援している若者のタイプが異なるとともに、一人ひとり状況が異なるため、一般化はできませんが、概ね次のようなご意見がありました。

<現状>

- 親自身が悩みを抱えている場合がある
 - ・子どもにどう接したら良いかわからない
 - ・親自身のエネルギーの低下が、子どもにも影響している
- ひとり親家庭は、経済的、子育てに対する負担が大きい
- 障害者からの相談が多い
- 発達障害に気づかない、気づかれぬまま大人になることがある
 - ・周囲との違いや、自分だけが出来ないことに悩みを抱えることがある
 - ・周囲から理解をえられないことがある
- 自尊心・自己肯定感が低下している
 - ・ほめてもらった経験が少ない
 - ・体験が少なく、どうしたら良いかわからない。自信が無い
- 困難をのりこえた経験がないまま社会人になると、厳しさに耐えられない場合がある
- 生活困窮の負のサイクルから脱出できない場合がある
 - ・生活習慣、学習習慣などが身につけていない、社会的体験が不足している場合がある
- 高校未進学者、高校中退者をフォローする仕組みが無い
- 成育歴や学校での生きづらさの状況が学校間で共有されていないことがある
- 就職難など社会情勢の影響も大きい（有名大学出身でも就職できない）

<課題・取組み>

- 発達障害の早期発見・専門的な療育及び支援が必要
- 個人の特性の理解と特性に応じた対応が必要
- 将来を見据えた教育（社会に出るために必要なこと）
- 生活困窮家庭への支援が必要
- 継続的な支援、関係機関（教育・福祉・労働行政等）の連携が必要
- 困難を抱える児童情報の学校間での伝達
- 高校未進学者、高校中退者の状況把握と支援
- ゴールの多様性（個々の特徴に応じたゴール設定）

(3) 人権全般

①一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会

<概要>

平成23年11月15日・16日に一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会の職員3人に人権文化のまちづくりをすすめる視点から、子どもたちの現状や必要な取組みについてご意見をいただきました。

<現状>

- 社会自体に人権意識が浸透していなかったり、様々な課題に対し無理解なところがある
- 様々な立場、生活上の課題を抱えている子どもたちがおり、結果、虚勢をはったり、問題行動につながることもある。また反対に、大人が望む子どもを演じている場合がある
 - ・子ども自身それを「良し」としているわけではない。大人を試している場合もあり、周囲の大人たちは、子どもからのメッセージだと考え、受けとめる必要がある
- 様々な立場、生活上の課題等の理由で差別（いじめ）を受けるケースや差別されるのではと恐れている子どもたちがいる
 - ・子ども達の周囲が人権課題に対し、無理解な場合がある
 - ・差別問題が、子どもの身近に存在している
 - ▶身近な所で、差別の話を聞いたり、肌で感じることもある
 - ▶子ども同士の間関係においても、力関係が存在したり、ちょっとしたことで、攻撃の対象になることがある
 - ・自分のルーツについて話す事に対するマイナス意識が強い（話せない環境にある）
⇒自己肯定感が低下
- 課題の継続
 - ・課題の本質が非常に根深い場合があり、その時々課題に対して取り組み、改善を積み重ねてはいるが、本質部分は簡単には解決できない
 - ・子ども時代のしんどさを抱えながら（解決せぬまま）、親になるケースがある
- 親自身も悩み・課題を抱えている
- 社会全体をみていると、どこまで言うと（すると）相手を傷つけてしまうという加減が分からない、歯止めがきかない子どもが増えている気がする。一方で、「人の痛み」を理解している子どもたちは、その一線を理解できている

<取組み>

- 保育所・幼稚園、小学校、中学校、地域、保護者が一緒になって活動を行う必要がある
 - ・0～15歳までの枠で、子どもの育ちについて連携しながら取り組む
 - ・互いに話し合える関係性の構築
 - ・保護者に子育てを一人で抱え込む必要はないと伝える必要がある
 - 地域での声かけが大事
- 子どもたちが自分の事が言えるようになる（勇気を与える）取組みが必要
 - ・子どもに自信をつけさせる（自分を肯定できるようになる）
 - ・学校、地域、家庭で子どもの話をしっかり聞く（大人と子どもの信頼関係）
 - ・子どもの本当の声（生活環境、親との関係性など）がどれだけひろえるか。また、それをどのように捉えるか。家庭や親の責任で終わるのではなく、どう向き合うかが重要
 - ・友だち同士で話し合える関係性、場づくりが必要
 - ・友だちの話を聞く事で自分だけではない事がわかることがある
 - ・友だちとの関係性の中で、少しずつ話ができるようになることがある
- いじめ＝差別であり、人権侵害につながるということを子どもたちに伝える必要がある
- 子どもたちに、自分の人権（権利）がある、守られるという事を伝える必要がある
- 地域における様々な活動の中で、人権（子どもの権利）を取組みの基礎とする必要がある（人権と共生）
- 大人自身が、人権（子どもの権利）を理解する必要がある
- 子どもたちにとって、安心できる居場所が必要

<その他>

- 子どもを取り巻く地域のネットワークは、地域によって取組み方法やキーとなる組織が異なるため、地域の実情に応じた取組みが必要
- 大阪府の人権問題に関する府民意識調査報告書（H23.3発行）によると、保護者が子どものしつけのために、ときには体罰を加えることについて必要だととらえる人が多い状況にある

②公益財団法人とよなか国際交流協会

<概要>

平成23年10月23日にとよなか国際交流協会で開催するボランティアスタッフ等に趣旨説明及び協力依頼を行い、平成23年12月11日に外国にルーツのあるボランティアスタッフ6人、日本人のボランティアスタッフ2人、センター職員1人から意見をいただきました。

このうち、外国にルーツのあるボランティアスタッフ(大学生除く)、日本人ボランティアスタッフやセンター職員からいただいた意見をまとめました。

<現状> P11 もあわせてご覧ください。

1) 社会全般

○労働力として渡日している外国人も多いが、就労環境が整備されていない

- ・長時間労働
- ・不安定雇用

⇒将来が見えず、親自身が不安を抱え、家庭が不安定となり、子どもへも影響する

○生活基盤が日本にしかない子どもたちが、親の在留資格等の問題で帰国を余儀なくされることがある

○在日韓国朝鮮人問題など昔から取り組んできた課題もあるが、ニューカマー、ダブルの子ども、(日本語を話せない) 帰国してきた子どもなど新しい課題がある

2) 本市について

○負のスパイラルにおちいる子どもがいる

- ・言葉がわからない→友達ができない→学校がおもしろくない→悩みはあるが、誰にも相談できない→落ち着いて勉強できる状態にない→勉強がおもしろくない→進学が難しい

○自分を表現できない子どももいる

- ・自己肯定感が低い
- ・言葉の問題

○やんちゃな子どもには先生の関心がいくが、おとなしくしている子どもの問題には気づきにくい

○教師に情報が入っているか、入っていないかで状況が変わる場合がある

○教師の知識・理解により状況が変わる

○学校に転入・入学時に教育委員会が通訳を派遣する制度がある

- ・制度内容を理解していない学校もある
- ・一定期間で終了する(本当に必要な時に利用できない)

- 日本生まれの外国にルーツのある子どもや帰国してきた子どもは、渡日の子どもと同じような課題を抱えているが、その実態がみえにくい
 - ・顔や名前をみても違いがわからない
- 障害児の情報は入学前から学校に入るが、外国にルーツのある子どもの課題については情報が入ってこない
- 国際交流センターに通えない子どももいる
- 子どもの権利条約への理解がうすい

<課題>

- 子どもの権利条約を周知するだけでなく、条約が浸透した社会にすることが必要
 - ・子どもが普段の生活で実感できることが大切
- 単なる言葉の通訳ではなく、子どもの気持ちに寄り添った対応や学習サポートができる人が必要。また、必要な時に派遣できる仕組みが必要。
 - ・外国にルーツを持つ学生の活用等、かかわる人・機会をふやす事が必要
- 子どもの気持ちに寄り添った対応
 - ・つらさを表現できない子どもへのサポート
- 身近な所に本音が言える居場所が必要
- 子どもたちのストレスを発散する場所が必要
- 外国にルーツのある子どもを中心とした取組みが必要
 - ・みんなが関心をもち、友達のことを理解する
- 制度の全般的な周知および必要な情報が必要な人に届く仕組みが必要
- 表面的な問題だけではなく、問題の本質を理解し対応することが必要

(4) その他

① 大阪府立桜塚高等学校 定時制の課程

<概要>

平成23年11月28日に大阪府立桜塚高等学校定時制の課程の教員2人に条例の趣旨を説明し、定時制高校の現状や生徒が入学するまでに大切なことなどについてご意見をいただきました。

<現状>

- 生徒はそれぞれ多様な課題を抱えている。中には、親から離れて暮らしているが、福祉的サービスが必要な生徒がいて、学校が様々な面でフォローしなければならないことがある
- 国語・数学の基礎学力がない生徒がいる（ひきこもり・不登校経験者など）
- おおまかな不登校の理由は、生活困窮や家庭環境に起因するいじめや発達障害などが原因の場合がある
- 1年生の5月になると学校に通えない生徒がいる。2年生に進級できれば、何とか卒業できる可能性が高まる
- 発達障害や自閉症、身体障害の生徒もいる
- 発達障害のボーダーの生徒もたくさんいる。今となっては専門機関に行くのを嫌がる保護者もいる
- 子どもの成長には、家庭環境が大きく影響している（家庭環境が厳しい生徒が多い）

<取組み>

- 中学から高校への情報連携が必要
 - ・生徒の出身中学にヒアリングに行っている
- 基礎学力をつける取組みが必要
 - ・来年度から1回15分間の授業を週3回行い、基礎学力の充実を図るモジュール授業を実施予定（1年間で1単位）

<課題>

- 貧困の連鎖を断ち切る取組みが必要
 - ・中学時代までに基礎学力をつけるサポートが必要
- 発達障害児を早期に発見し、専門機関へつなぐ取組みが必要
 - ・当該児童の成育歴等の情報の引き継ぎが、学校間で必要
- 就労支援
- 市の福祉部門との連携

②社会福祉法人豊中市母子寡婦福祉会

<概要>

平成23年12月6日に社会福祉法人豊中市母子寡婦福祉会の職員2人に条例の趣旨を説明し、ひとり親家庭の子ども達の現状やその支援策についてご意見をいただきました。

<現状>

- 正規職員として就業している人が少ない
 - ・生活するだけでやっとの家庭が多い
 - ・病気等で生活保護を受給。脱したいが難しい
 - ・パートを掛け持ちする人もいる（夜に働きにでることも多い）。時間が無く、食事を作れないので、子どもにお金を渡す場合もある
 - 教育にお金を使えない。また、子どもに接する時間も少なく学習支援が不十分であり、貧困の連鎖につながる場合もある
 - 親として大学に行って欲しいと思うが学費が難しい
 - ・学費が必要だと目標を持って頑張れる親もいるが、自暴自棄になってしまう親もいる
 - 核家族化がすすみ、相談や助けてくれる支援者（親、兄弟、友達）が近くにいない場合がある
 - 悩み事を相談できない
 - 日常的な支援を受けることができず、親子ともに孤立する場合がある
 - 親に余裕が無い場合がある
 - ・親が子どもと接する時間が少ない
 - ・子どもと話をする時間が無い
 - ・しつけをする時間が無い
 - ・自分の力量以上に物を買って与える場合がある
 - ・子どもにとっては、色々な経験をする機会が少ない
 - 家庭そのものが不安定になることもある
 - ・子ども自身勉強できる環境にない場合もある
 - ・子ども自身が不安定になり、問題行動や不登校につながる場合もある
- ※支援者（親、兄弟、友達）が近くにいる場合など、親に精神的、経済的余裕がある家庭では、子どもが安定していることが多い

○子どもが我慢をしている場合がある

- ・一人で孤立する場合がある
- ・言いたいことがあっても、正直な気持ちを親に言えない（気を使っている）
- ・食事の時間など、親と気軽に話をする時間が少ない
- ・両親がいれば役割分担できるが、ひとり親だと子どもを叱るだけになり、逃げる場所が無い
- ・きょうだいの大学進学のために、自身の進学をあきらめる子どももいる

○親も悩んでいる場合がある

- ・子どもと接する時間が少ない
- ・子どもに必要以上に気を使う場合がある
- ・男児は成長すると話をしなくなり、子どもの考えがわからなくなる
- ・男児は力が強く、恐怖心をいだけ母親もいる
- ・ひとり親家庭への偏見もあり、余計に頑張ろうと思う

<課題・取組み>

（子どもにとって）

- 安心できる居場所、自分を出せる場所が必要
- 学習支援が必要
- 色々な経験ができる機会（集団活動、ごはんやおやつ作り等）が必要

（親にとって）

- 当事者でないとわからないこともあり、相談できる居場所が必要
- ひとり親家庭に必要な情報の配信が必要
 - ・市役所や母子寡婦福祉会に来ることができない人もあり、メール配信等のサービスが必要
- 子どもと触れ合う大切さを伝える必要がある
 - ・子どもの立場にたった言動が必要（上からの物言いはダメ）
 - ・子どもの変化に気づく
 - ・いけないことはいけないと、子どもに伝える
 - ・親自身もあいさつするなど、親自身の言動にも注意が必要

③不登校・ひきこもり・悩みを抱える生徒・児童を支援している団体

<概要>

平成23年12月1日に不登校・ひきこもり・悩みを抱える子どもを支援している2団体4人の方に条例の趣旨を説明し、子どもたちの現状や団体の活動等についてご意見をいただきました。

<現状>

1) 当事者間での話合いや調整が困難な場合がある

○教師が忙しい。また、スクールカウンセラーはいるが、相性が合わない場合もある

- ・全てを聞いてもらえない、リラックスして話し合える雰囲気ではない場合がある
- ・悩んでいる時にすぐに相談できない場合がある

○面談では親が責められている気がして、親自身がつらい思いをすることがある

○不登校になった原因の究明が困難な場合がある（誰も知らない。子どもも話さない）

2) 親子ともにダメージを負う

○心療内科や精神科への通院に対するマイナスイメージがある

- ・思春期の子どもにとっては大きな問題。親にとってもダメージが大きい
- ・通院していることを隠す場合もある

○厳しい現状を公にするのが困難な状況があり、1人で抱え込む場合がある

- ・相談に行けない
 - ▶相談に行っても、反対に責められている気がする場合がある
 - ▶相談機関を知らない。知っていても開設時間に相談に行けない場合がある
- ・学校からPTAへの伝え方によっては、誤解が生じ相談者（保護者）が周囲から責められることもある

○子ども時代のつらい体験の影響が、後々発生することがある

3) 義務教育終了後の支援策がない

○中学校までは支援してくれるが、卒業すると支援がなくなってしまう

4) 学校により対応が異なる場合がある

○相談機関を学校から紹介された人もいるが、紹介されなかった人もいる

○家庭と学校との距離感が難しく、学校から必要な事項の情報提供がないこともある

○サポート会議を学校で定期的を開催すると決まった後も、保護者が依頼しないと開いてもらえない場合がある。また、当事者の視点が不十分な会議もあるのでは

○教師が子どもの権利条約を知らない場合があり、組織としての対応が不十分なことがある。結果的に、無意識に子どもを傷つける言動を行う場合がある

- 教師の子どもへの対応に問題があっても、教師間では指摘しづらく、結果として見過ごされる場合がある
- 問題事案への対応で、子ども自身の気持ちが一番に尊重されず、結果的により深く子どもの心を傷つけてしまう場合がある

5) その他

- 教師の言動が子どもに与える影響は大きく、無意識のうちに子どもを傷つける場合や特定の子どものマイナスイメージを周囲に植え付け、いじめや不登校につながる場合がある
- 入学のしおりには、教職員の中に不登校委員会が設けられているが、当事者抜きで会議でどのようなサポートがなされているのか疑問に思う。ケースバイケースで話し合われた場合、不登校の児童人数分のサポートが行われるべきではないか
- 文化館では、個人を認めてくれ、学校との連携を図ってくれた
- 文化館のメニューをこなせない子どももいる
- 中学時代に「正しいことが通らない」「強い者には逆らえない」「自分の身は自分で守らないといけない」「友だちもいつ裏切るかわからない」という思いで育った子どもがいる

<課 題>

- 安心して利用できる相談機関が必要
- スクールソーシャルワーカーのように学校と保護者・子どもの間にワンクッションがあった方が良いのでは
- 関係機関（学校、文化館、教育センター、カウンセラー、病院等）の連携が必要
- 問題が深刻になる前に子どもが話せる人・場所が必要
- 子どもにかかわる大人は、子どもの権利を理解する必要がある
 - ・子どもは傷つきやすく、こわれやすい
- 子どもに主体性があることを子どもに伝える必要がある
 - ・子どもは、権利が侵害されていても気づけない
- 子どもに安心感を与える、正しいことが通ることを伝える必要がある
 - ・何があっても大人が守る
 - ・孤立させない ⇒気軽に行ける子どもの居場所が必要（就学後対象）
- 子どもは行きたいところに行って、子どもが好きなことができることが、「育ち」に大切である
 - ・サポートできる大人が必要（普段の関係性が必要）
 - ・地域、行政ともに動く事が必要
- 子ども第一、寄り添うことが大切
- 子どもへの情報の伝え方（わかりやすさ、子どもがどう思い、考えるかが大事）
- 集団生活の中で学ぶことが重要
- 自分でも成長していかなければならない

(4) 多胎児の保護者及び支援者

<概要>

平成23年10月28日に実施された多胎育児地域支援シンポジウム終了後に、意見交換の時間をいただき、条例について簡単に説明し、参加者から多胎児の保護者の大変さやどのような支援が必要かご意見をいただきました。

<まとめ>

- 単胎妊娠・出産に比べ、母体に与える影響が大きく、産後うつ発生率は単胎の約3倍、虐待発生率は単胎の約8～10倍と言われている
 - ・いずれかの子どもに愛情が偏る事がある
 - ・産後は育児に追われ、支援情報の入手や助けを求める声をあげる余裕がない
 - ・理想の(単胎)育児と現実とのギャップに、自己肯定感を落としてしまう
 - ・母親だけではなく、父親や育児を手伝う他の家族の疲労度も高い

- 周囲からの支援、声掛けが重要(多胎児の保護者の声)
 - ・こんにちは赤ちゃんに来てもらえて嬉しかった。頑張ろうと思えた
 - ・こちらから声をかけるのは敷居が高い(迷惑をかけるのではと思っている)ので、声をかけてもらおうとありがたい

- 妊娠時からの情報提供が必要(多胎児の保護者の声)
 - ・出産後約2カ月は、寝る間もないため、諸制度、多胎児ならではの育て方などの情報が事前に必要

4. その他

(1) 障害のある子どもへのヒアリング

<概要>

(仮称)豊中市子ども健やか育み条例に関する懇話会委員が児童デイサービスに通所している子どもにヒアリングを行いました。無理にすべてを聴き取るのではなく、子どもの状況をみながら、可能な範囲で聴き取りを行いました。聴き方により回答には多少の差はありましたが、整理すると下表のような結果になりました。

<まとめ>

- ・総体的に自己肯定をする子どもが多い
- ・将来に関してはそのようなことを聞かれた経験も無いようで、分からないとの回答が多い

	大人と一緒にいて 楽しいこと、悲しい こと	友達として楽しい こと、悲しいこと	自分の好きなところ (自分が好き？ 嫌い？)	どんな大人になりたいか
8歳男子 (小2)			好き	パパとママ
9歳男子 (小3)	ある	友達がいなくなる ことが悲しい	好き ドラムがたたけると ころ	食べることが好き なのでコックさん
13歳女子 (中1)		マンガが読める	好き	
14歳女子 (中2)			好き	
14歳女子 (中2)			好き 自分の顔が好き	
14歳男子 (中2)		〇〇君	好き 学生服を着る自 分が好き	よく分からない
14歳女子 (中3)			好き	ケーキ屋さん
17歳男子 (高3)			好き	
18歳男子 (高3)			好き	よく分からない

(2) 親学習プログラムに参加した高校生の感想

<概要>

家庭教育支援基盤形成事業の親学習プログラムに参加した大阪府立桜塚高校1年生361人(全9クラス)及び大阪府立千里青雲高校3年生11人の親となるために必要だと感じることや子どもたちが親に感じている思い等について、当日のプログラムを担当した親学習ファシリテーター((仮称)豊中市子ども健やか育み条例に関する懇話会委員)から報告していただきました。

<内容>

○親となるために必要なこと(桜塚高校1年生)

多くの生徒は、「お金」「責任」「自覚」のいずれかを回答していました。その他の意見としては、次のようなものがありました。

- ・「子どもと正面から向き合う」「どんなことも受け止める」「子どもの事を理解する」
- ・「子どもの見本となる(正しく導く)」「子どもに人生とは何かを教える」
- ・「怒る時は怒る、ほめる時はほめる」
- ・「子どもを育てるための知識」

- ・「子どもを一番に考えること」
- ・「愛情」「優しさ」「思いやり」
- ・「厳しさ」
- ・「子どもを守る強さ」

- ・「協力しあう気持ち」「家族を思う気持ち」

○親と子が接する時のおもい(千里青雲高校3年生)

- ・相手がなにを考えているのか考えて思いやる
- ・相手を大事にする、愛情をもって
- ・相手を思う気持ち、愛情、ぬくもり
- ・大事に扱う、大切

III. 資料

1. 保護者等意見の総括表

※ ○印は、議論の有無を示すものです

	現状・課題	支援のために大切なこと	地域子育て・子育て支援ネットワーク小学校区連絡会			豊中市PTA連合協議会	公募保護者		
			北部	中部	南部		北部	中部	南部
地域の状況	地域格差が子どもに影響 経済格差が子どもに影響 <input type="checkbox"/> 転勤などで居住者の移動が多い地域とそうでない地域がある ・祖父母宅など親類が近くに住む家庭が多い地域とそうでない地域がある <input type="checkbox"/> 子どもが多い地域や少ない地域がある <input type="checkbox"/> 経済的に安定している家庭が多い地域とそうでない地域がある <input type="checkbox"/> 教育にお金をかけることができる家庭とそうでない家庭がある（学力格差につながる）	<input type="checkbox"/> 近隣に親類等がない子育て世帯の孤立化を防ぐ <input type="checkbox"/> 地域の状況に応じた取り組み <input type="checkbox"/> 経済的に困窮している家庭への支援（負の連鎖を防ぐ）	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	地域のつながりが希薄になっている <input type="checkbox"/> 家庭以外で社会のルールを自然に学ぶことが難しくなっている <input type="checkbox"/> 近隣との交流が残っている地域とそうでない地域がある（転勤族多い地域では顕著） <input type="checkbox"/> 自治会や子ども会の加入率が低い地域がある <input type="checkbox"/> 近所づきあいを望まない人もいる	<input type="checkbox"/> 地域のつながり、信頼関係 <input type="checkbox"/> 人と人のつながり <input type="checkbox"/> 地域の支援者同士の顔つなぎ							
	地域全体で子どもを見守る環境づくりが難しい <input type="checkbox"/> 地域に気になる子どもがいても、関係性が無いと声をかけづらい <input type="checkbox"/> 問題のある子どもを地域全体で見守るということができなくなってきた <input type="checkbox"/> 悪いことをしている子どもがいても、関係性が無いと注意しづらい <input type="checkbox"/> 気になる親子をみかけても、声をかけづらい <input type="checkbox"/> 転勤者が多い地域では、人の移動が多く、限界がある	<input type="checkbox"/> 親子が集える場、母親同士をつなぐ場所・機会 ・小さいころからの声掛け ・日ごろのあいさつ ・おばちゃん的存在、集える場所の必要性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	親子で常時集まれる場所が少ない 世代間交流が少ない <input type="checkbox"/> 勉強などを理由に地域の行事に参加させない親がいる <input type="checkbox"/> 異年齢の交流の中で自然と学べることが学ばなくなっている	<input type="checkbox"/> 様々な世代が交流できる機会 ・経験の幅が広がる（マイナスの経験であっても大事）		<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
社会の状況	失敗の許されない社会になっている <input type="checkbox"/> テストでの点数が重要 <input type="checkbox"/> 良い学校に進学すること以外が評価されにくい ・将来に夢を持たないまま勉強している子どもがいる <input type="checkbox"/> 塾や習い事に行く子どもが多いが、そこでは試験対策や受験対策しか教えてくれない <input type="checkbox"/> 早くから将来のことを意識させられているが、何が良いのかわからない子どもがいる	<input type="checkbox"/> 再チャレンジできる機会や情報 <input type="checkbox"/> 子どもがやりたいことができる <input type="checkbox"/> 社会に出てから必要なことを学ぶこと <input type="checkbox"/> 学ぶ楽しさを知ること <input type="checkbox"/> 進路の多様化への周囲の理解 <input type="checkbox"/> 金銭教育や職業理解の取り組み					<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	人気地域（校区）という評判が地域に影響を与える <input type="checkbox"/> 不動産広告が評判を作っている <input type="checkbox"/> 学校、保護者、子ども自身も評判に影響されている ・塾通いがあたりまえ	<input type="checkbox"/> 学校全体で判断するのではなく、一人ひとりの子どもをしっかりみることが重要						<input type="checkbox"/>	
	個人情報の壁により、保護者同士の連絡網がつかれない <input type="checkbox"/> 親同士の連携がはかれない								<input type="checkbox"/>
	便利な世の中になりすぎている <input type="checkbox"/> 事前の打合せや調整が不十分でも、携帯電話やメールで調整可能 ・今すれば良い話を、後から携帯やメールで済ませようとする <input type="checkbox"/> 紙の辞書・事典を使用しなくなり、調べたいこと以外の情報を偶然に知るチャンスが減った	<input type="checkbox"/> 行動・経験のひと手間をかけること						<input type="checkbox"/>	
	チェーンメールなど、昔は無かった心配事が発生している 情報過多（大人も子どもも） <input type="checkbox"/> 何が大切かわからない、本当に必要な情報がわからない <input type="checkbox"/> インターネットからの情報を信じすぎる人もいる	<input type="checkbox"/> 気軽に相談、意見交換できる場所 <input type="checkbox"/> 知りたい情報が集約されている場所		<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	子ども自身がストレスを抱えている <input type="checkbox"/> 表面的には良い子 <input type="checkbox"/> ストレスを発散する場所や機会が少ない	<input type="checkbox"/> 子どもの合図を見逃さない <input type="checkbox"/> 本当の自分を出せる場所					<input type="checkbox"/>		
子どもの姿	忙しい子どもが多い <input type="checkbox"/> 塾や習い事に通っている子どもが多い <input type="checkbox"/> 時間を気にしながら遊んでいる <input type="checkbox"/> 交友範囲が限定される（予定のあう子ども同士で遊ぶ） <input type="checkbox"/> 連絡用に携帯電話を持っている（→ 親が交友範囲を把握できない）	<input type="checkbox"/> 外で色々な年齢の子どもと遊ぶことが大切 <input type="checkbox"/> 受験テクニックではなく学ぶ楽しさを知ってほしい	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	球技できる場所が少ない <input type="checkbox"/> 管理責任を問われるためか <input type="checkbox"/> 公園で子どもの姿をみかけない ・公園にいてもゲーム機やカードなどで遊んでいる子どももいる		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	大人の前では良い子どもが多い <input type="checkbox"/> 成績を気にしている子どももいる <input type="checkbox"/> 子どもが大人化している <input type="checkbox"/> 表面的には問題が無いようでも、実際には問題が生じている	<input type="checkbox"/> 多様性をもっと理解する必要がある ・大人は、子どものことをしっかりみる必要がある <input type="checkbox"/> 自分らしさを持つ ・持てる環境が必要 <input type="checkbox"/> 本当の自分を出せる場所 ・自分は自分という鈍感力も必要 <input type="checkbox"/> 子どもの合図を見逃さない					<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	みんなと一緒に良いという雰囲気になっている <input type="checkbox"/> 向上心が少ない <input type="checkbox"/> 自分らしさを出しにくい						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
生きるために必要な力が不足している （問題解決力、自分がどうしたいか考える力、自信、コミュニケーション力） <input type="checkbox"/> 大人が何でも段取るため、子どもが経験できない <input type="checkbox"/> コミュニケーションの機会が減少している ・ゲーム機やカードでばかり遊んでいて、コミュニケーションがはかれない ・家庭の固定電話にかかってくる電話も少なく、知らない人と電話で話す機会がない ・けんかをしたら、相手を許す範囲が狭くなっている ・けんかをしたら、その子とかわからないこともあるし、親もそれをすすめる <input type="checkbox"/> 親や大人がトラブルを事前に防止する ・けんかが始まれば、すぐに止める ・怪我を恐れ、最初から危険なことをさせない <input type="checkbox"/> 出来ないことや失敗があると、子どもはやらなくなる ・出来ないことがダメな事と思っている子どもがいる。そう思わせる周囲の環境がある <input type="checkbox"/> 「何かあっても何とかなんと」思える子どもが少ない <input type="checkbox"/> 遊びが自然発生的におこらない ・きっかけがないと、みんなで遊べない	<input type="checkbox"/> 子どもの考えや自主性を尊重する ・大人が受け止める ・子どもに干渉しすぎない ・子どもが判断するために必要な知識の学習機会が必要 <input type="checkbox"/> 子どもに経験させる（大人は見守る） ・小さいころからの経験の積み重ね ・失敗を責めない。出来る出来ないではなく子どもに価値をおく ・親同士の人間関係が必要（問題が起こっても解決できる） ・家庭などでの経験が大事（失敗を重ねて覚える） <input type="checkbox"/> 遊びなどの方法を伝えることも大事					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

	現状・課題	支援のために大切なこと	地域子育て・子育て支援ネットワーク小学校区連絡会			豊中市PTA連合協議会	公募保護者		
			北部	中部	南部		北部	中部	南部
子どもの姿	社会性やモラル、生活習慣などが身につけていない子どもがいる <input type="checkbox"/> みだしなみや言葉遣いができていない子どもがいる <input type="checkbox"/> 小さいころからのしつけがなされていない子どもがいる <input type="checkbox"/> 出来ないのではなくて、教えられていない <input type="checkbox"/> 親自身が社会性や生活習慣が身につけていない場合もある <input type="checkbox"/> TVゲームをしていると時間を守らなくなったり、イライラしている子どもがいる <input type="checkbox"/> カードゲームの貴重なカードを持っていることでいじめなどの問題につながることもある <input type="checkbox"/> 責任感が伴っていない	<input type="checkbox"/> 家庭における親子の関係 <input type="checkbox"/> 親子で話し合いの場(道徳心や思いやりを育てるために) <input type="checkbox"/> 家でのルール作り <input type="checkbox"/> 親自身への教育が必要 <input type="checkbox"/> 家庭でのしつけ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	放任されている子どももいる <input type="checkbox"/> 親が忙しい、しんどさを抱えている <input type="checkbox"/> 親の意識不足			<input type="checkbox"/>					
	やってもらおうことが当たり前と思っっている(感謝の気持ちが薄い)子どももいる <input type="checkbox"/> 大人が何でも段取る	<input type="checkbox"/> 感謝の気持ちを持つ							<input type="checkbox"/>
	子どもが経験するチャンスが奪われている <input type="checkbox"/> 親の過干渉 <input type="checkbox"/> 管理責任を問われることが多くなり、大人が、子どもに任せることに消極的になっている また、使用禁止等の措置をとることがある <input type="checkbox"/> 社会全体の安全性が低下しており、子どもだけの行動が制約される <input type="checkbox"/> 経済的理由や親の多忙等により、子どもに社会的体験をさせられない家庭がある	<input type="checkbox"/> 子どもが様々な経験をできる機会 <input type="checkbox"/> 幼児体験が重要 <input type="checkbox"/> 失敗体験が重要 <input type="checkbox"/> 全てを管理責任ですませない(自己責任も必要) <input type="checkbox"/> 安心安全なまちづくり <input type="checkbox"/> しんどさを抱える家庭への支援				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	人を敬うという気持ちが無い <input type="checkbox"/> 異世代の交流が無い <input type="checkbox"/> 大人の言動に問題がある(敬えない) <input type="checkbox"/> 大人が子どもに気がつかない	<input type="checkbox"/> 異世代の交流 <input type="checkbox"/> 親が子どもの前で教師の悪口を言わない							<input type="checkbox"/>
親の姿	親の考えや行動が子どもに影響を与える <必要以上に子どもに関与する親がいる> <input type="checkbox"/> 子どものことに熱心な親がいる <input type="checkbox"/> 子どものことを見過ぎていて <input type="checkbox"/> 子どもに気を遣い過ぎていて <input type="checkbox"/> 子どもの交友範囲が、親の交友範囲や意向で決まってしまうことがあり <input type="checkbox"/> 親の価値観で、地域の行事等への参加、不参加が決まる <input type="checkbox"/> 子どもの将来を決める親もいる <input type="checkbox"/> やって良いことダメなことの判断を大人が先にしている	<input type="checkbox"/> 子どものやりたいことができる <input type="checkbox"/> 自由、自主性の尊重 <input type="checkbox"/> 大人が受け入れる、受け入れる環境が必要 <input type="checkbox"/> 干渉しすぎない <input type="checkbox"/> リスクもあるため、親の覚悟が必要 <input type="checkbox"/> 子どもが楽しければ良いと思える親の余裕が必要 <input type="checkbox"/> 親の子離れ <input type="checkbox"/> 子どもが求めているものを親が理解する <input type="checkbox"/> まずは、子どもに経験させること(マイナスの経験も必要)		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	<子どもへの関与が質的又は量的に不足している親がいる> <input type="checkbox"/> 親の決めつけや上からものを言う親もいる <input type="checkbox"/> 小さいころからのしつけができていない家庭もある <input type="checkbox"/> 親自身ができていない場合もある <input type="checkbox"/> 子どもへの関心が薄い親がいる(親自身のしんどさが原因の場合もある) <input type="checkbox"/> 携帯電話や母親同士のおしゃべりに夢中で、子どもに関心が向いていないことがある <input type="checkbox"/> 親子で一緒にという意識がない親がいる(他者にまかせる) <input type="checkbox"/> 子育てに必要なことを理解できていないのに、理解しているつもりもいる	<input type="checkbox"/> 親自身が子育てについて学ぶ場 <input type="checkbox"/> 子どもを通じた親育成 <input type="checkbox"/> 子どもが求めているものを親が理解する <input type="checkbox"/> 母親もストレスを抱えて大変だと理解すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
	母親がストレスや不安を抱えている <input type="checkbox"/> 核家族化の影響など母親が孤立している(父親が多忙な場合もある) <input type="checkbox"/> 余裕のない保護者もいる <input type="checkbox"/> 外出できない親もいる <input type="checkbox"/> 育児に自信が持てない母親がいる <input type="checkbox"/> 完璧をめざし、頑張り過ぎている母親がいる <input type="checkbox"/> 情報が多すぎて何が正しいのかわからない <input type="checkbox"/> 相談機関を利用すると、ダメな親という気持ちになる人がいる	<input type="checkbox"/> 親支援 <input type="checkbox"/> 親子で集える場所、つながる場所 <input type="checkbox"/> 気軽に相談、意見交換できる場所・人間関係 <input type="checkbox"/> 頑張りすぎなくてよいことを伝える <input type="checkbox"/> 弱さを出せる場所 <input type="checkbox"/> 関係機関の連携 <input type="checkbox"/> 親同士の連携	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	自己責任よりも管理責任を問う親が増えてきた <input type="checkbox"/> 公園での禁止事項が増える <input type="checkbox"/> 子どもが怪我をすると大問題になる場合がある <input type="checkbox"/> 子どもに任せることに大人が消極的になっている ⇒ 子どもが経験する機会に影響	<input type="checkbox"/> 責任を必要以上に求めない				<input type="checkbox"/>			
	教育は先生(学校)が行うものと思っっている親がいる <input type="checkbox"/> 先生や幼稚園のママ友以外の保護者とコミュニケーションをとろうとしない親がいる	<input type="checkbox"/> 学校と家庭の役割分担(親も変わる必要がある) <input type="checkbox"/> 保護者同士の連携							<input type="checkbox"/>
学校等	働きにでたい母親がいる <input type="checkbox"/> 子育てと家庭が両立できる環境整備							<input type="checkbox"/>	
	大人が忙しい <input type="checkbox"/> 保護者が全て働いている家庭がある。 <input type="checkbox"/> 子どものことをしっかりみることができない <input type="checkbox"/> みんな一緒だと親自身が安心する <input type="checkbox"/> 子どもに向かう時間が無く、ゲーム機等を買って与えてしまう	<input type="checkbox"/> 大人は、子ども一人ひとりをしっかりみる必要がある <input type="checkbox"/> 子育てと家庭が両立できる環境整備 <input type="checkbox"/> 多様性を理解すること <input type="checkbox"/> 家族でそろう時間 <input type="checkbox"/> 子どもの安全な居場所 <input type="checkbox"/> 地域の大人が関わられる仕組みも大切	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	社会性やモラル、コミュニケーション力が不足している親がいる <input type="checkbox"/> 親同士で問題解決できない場合がある <input type="checkbox"/> わが子がすべてという親がいる <input type="checkbox"/> 親自身が社会ルールを守れていない場合がある <input type="checkbox"/> 本来自己責任であるべきことを、他人に求める <input type="checkbox"/> 子育てに必要な知識などを理解できていない親がいる	<input type="checkbox"/> 親自身への教育 <input type="checkbox"/> 責任を必要以上に学校等に求めない <input type="checkbox"/> 要支援の保護者への対応 <input type="checkbox"/> 親が出来ていないことを子どもに言わない	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	教師が児童・生徒を厳しく注意することが難しい(教師と児童・生徒の関係性が難しくなっている) <input type="checkbox"/> 教師もストレスを抱えている <input type="checkbox"/> 親が色々学校に注文をつける <input type="checkbox"/> 状況が変化の中で、従来以上に教師のスキルが重要	<input type="checkbox"/> 教師が本気になって子どもを注意すること大事 <input type="checkbox"/> 学校と家庭の役割分担(親も変わる必要がある) <input type="checkbox"/> 親は子どもの前で教師の悪口を言わない <input type="checkbox"/> 何でも学校の責任にしない					<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
教師は子どもへの影響力を持っている <input type="checkbox"/> 社会ルールを教えてくれる存在 <input type="checkbox"/> 教師の接し方で、子どもは自信をつけることができる	<input type="checkbox"/> マイナスの言葉ではなく、プラスの言葉が必要(人権の視点)					<input type="checkbox"/>			
しんどさを抱える親子の情報を関係機関で共有する必要がある <input type="checkbox"/> 子どもが小学生になっても親支援が必要な場合がある	<input type="checkbox"/> 関係機関の連携			<input type="checkbox"/>					

(仮称) 豊中市子ども健やか育み条例にかかる
ヒアリング結果報告書

平成 25 年 (2013 年) 2 月

発行 豊中市 こども未来部 こども政策室

〒560-8501 豊中市中桜塚 3-1-1

TEL 06-6858-2258